CSL4/8 II

コンパクト・ラインアレイ SR システム

日本語版　取扱説明書

株式会社 サウンドハウス
〒286-0825　千葉県成田市新泉14-3
TEL:0476(89)1111 FAX:0476(89)2222
http://www.soundhouse.co.jp　shop@soundhouse.co.jp

はじめに

この度は CLASSIC PRO コンパクト・ラインアレイ SR システム、CSL4/8II をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。製品の性能をフルに活用し、末永くお使いいただくためにこの取扱説明書を必ずお読みください。なお、本書が保証書となりますのでお読みになった後は大切に保管してください。

使用上のご注意

- この取扱説明書にしたがって操作してください。
- 水には大変弱いので、雨などがかからないよう十分ご注意ください。
- 内部には精密な電子部品が多数実装されています。移動および輸送時には大きな衝撃が加わらないようにしてください。
- 本機の設置場所は直射日光の当たる場所や高温になりやすい場所をさけ、なるべく通気性の良い場所でご使用ください。
- 定格電圧 AC100V, 50/60Hz でご使用ください。
- 電源コードは機材への挟み込みなど、無理な力が加わらないよう、ご注意ください。
- 異常な音又はにおいが発生した際は、電源を切り、販売店またはサウンドハウスまでお問い合わせください。
- 長い間使用しない場合、電源を切り、電源コードがコンセントに入ってないことをご確認ください。
- 故障や感電事故を防止するとともに、性能を維持するためにもケースを開けて内部に触れないでください。修理が必要なときには、販売店、もしくはサウンドハウスまで問い合わせください。

主な特徴

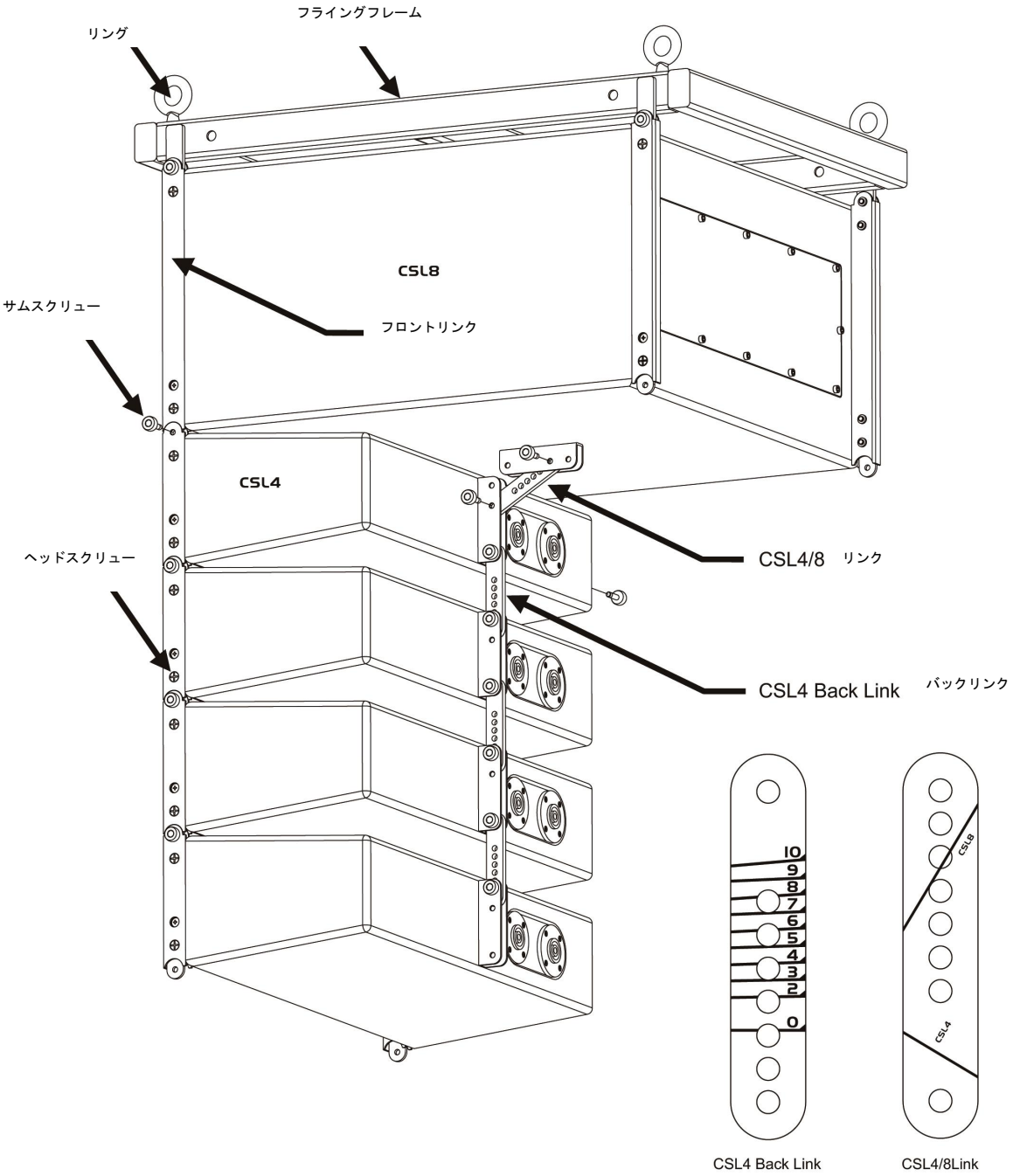
- コンパクトなデザインで様々な用途での使用が可能。
- リボンツィーターを搭載し、40kHz までの周波数特性に対応します。
- スプレーアングル（スピーカー間の開き角度）が任意の角度に調整可能、様々な会場でのフライングにも柔軟に対応します。
- DSP 搭載の 600W パワーアンプ部。
- システムコントロールを可能にする USB、RS485、RS232 ポート装備。

概要

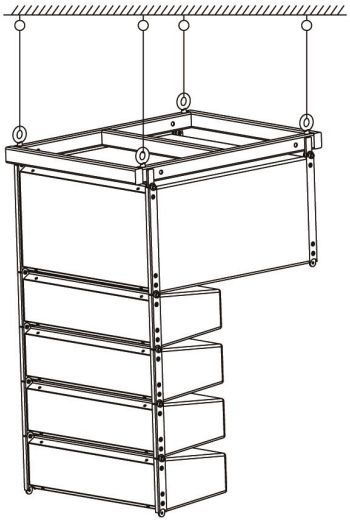
CSL4/8II は映画館、大きな会議室、多目的ホール、教会、会堂などで使用するためにデザインされました。アクティブ・サブウーファー1基とフルレンジスピーカー4 基でマルチクラスターシステムを構築します。

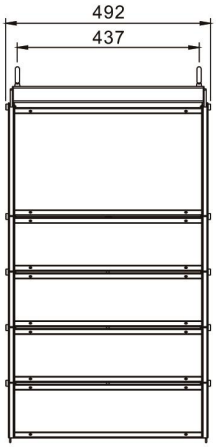
CSL4/8II はラインアレイのコンセプトを導入してデザインされました。特徴はコンパクトで扱いも簡単。DSP 搭載のパワーアンプにより、音源に接続した時点でいつでも使用する事が出来ます。周波数特性、クロスオーバーポイント、スロープ、ディレイ、ゲインそしてリミット保護など、各クラスターのシステムは USB（又は RS485、RS232)経由で PC へ接続することによって簡単にコントロールする事が出来ます。リボンツィーターの搭載により、40kHz まで幅広い周波数特性に対応します。アクティブサブウーファーは歪みを押さえ、リニアな増幅が可能な上、DSP テクノロジーを搭載。入力信号はプリアンプ部で増幅、DSP で処理され、パワーアンプを通ってサブウーハー、フルレンジスピーカーへと出力されます。スプレーアングルは微調整が可能で、フライング用のハードウェアもさまざまなアプリケーションに対応できるようデザインされています。

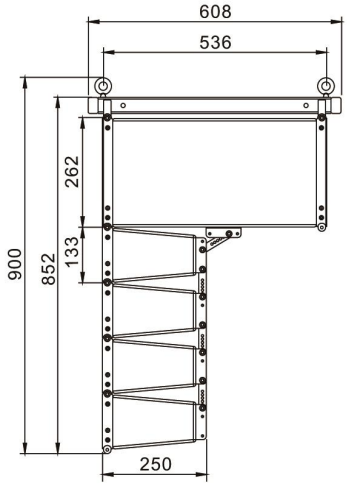
セットアップ


フライングフレーム
リング
CSL8
サムスクリュー
フロントリンク
CSL4
ヘッドスクリュー
CSL4/8 リンク
CSL4 Back Link
バックリンク
10
9
8
7
6
5
4
3
2
0
CSL8
CSL4
CSL4 Back Link
CSL4/8Link

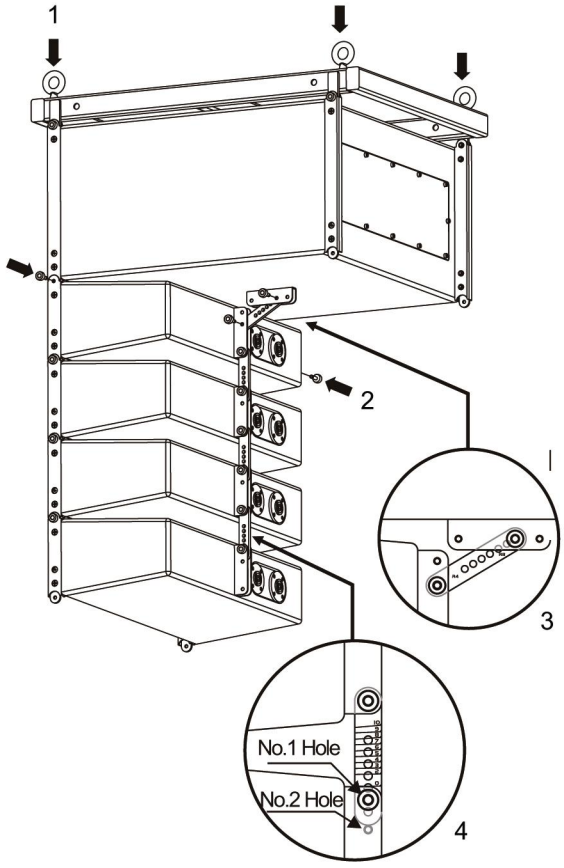
設置方法1







1 つのクラスターを垂直に吊り下げる



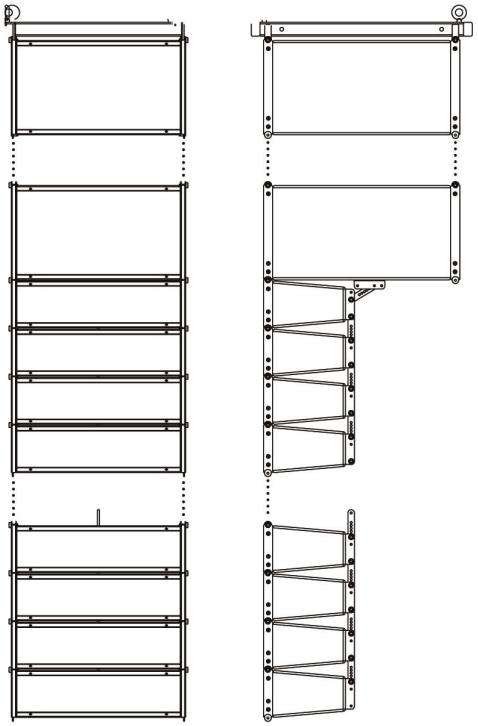
1. パッケージを開け、CSL4/8II のスピーカーと付属品を取り出します。
2. 4 つの M8 リングをフライングフレームに取り付けてください。(矢印 1)
3. CSL8 の底にある 2 つの M5 サムスクリューを外して、CSL4/8 リンク金具を外します。
4. CSL4 上部前面にある 2 つの M5 サムスクリューを取り外してください。(矢印 2)
5. CSL4 の左右前面にある U 字型溝へ 2つのフロントリンクを差込み、両方のネジ穴が揃っていることを確かめた上で、ネジを通してきつく締めてください。
6. CSL4/8 リンクの片端を CSL4 の後側の U 字型溝へ差し込み、もう片端を CSL8 底部の U 字型溝へ差し込んだ後、リンクの両端にある二つのネジ穴が並んであることを確かめた上で、2 つの M5 サムスクリューをきつく締めてください。(図 3)CSL4/8 リンクにある白いスケールラインが 2 つの U 字型溝と揃っていることを確認して下さい。

スプレーアングルの調整

後ろ側のリンク金具（CSL4 バックリンク）と一緒に CSL4 の角度を調整します。CSL4 バックリンク上のスケールとCSL4の後側にあるU字型溝の端が揃っている事を確認してください（それぞれのスケール線に表示してある番号は各スピーカー間の開き角度をさします）。M5 サムスクリューを CSL4 バックリンクと CSL4 後側の U 字型溝の穴に差し込みます。スプレーアングルを 0°/2°/4°/6°/8°/10°にするには図の溝穴 1（No.1 Hole）を、3°/5°/7°/9°にするには溝穴 2(No.2)を使用します。例えば、二つ CSL4 スピーカーの間のスプレーアングルを 5°にした場合、CSL4 バックリンクの 5 と表示されているスケールラインを上部スピーカー後側の溝にあわせると、CSL4 バックリンクの 1 つの穴が、スピーカーの溝穴 2 に合います。2 つの穴が揃ったところでM5 サムスクリューを差し込み、きつく締めます。

設置方法2

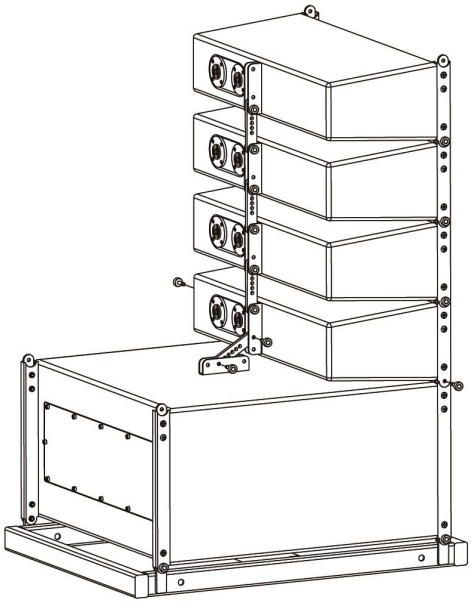
複数のクラスターを吊り下げる（最大4つのクラスターを吊り下げ可能）



1. パッケージを開け、CSL4/8II スピーカーと付属品を取り出します。
2. 4つのM8リングをフライングフレームに取り付けてください。（図 1）
3. CSL8 の底にある 2 つの M5 サムスクリューを外して、CSL4/8リンク金具を外します。U字型溝を分解し、2 つの M5 ヘッドスクリューを元の穴に取り付けます。
4. もう一台の CSL8 のフライングフレームを外し、1 台目の CSL8 の底に取り付け、M5 サムスクリューできつく締めます。
5. CSL4 前面上部にある M5 サムスクリューを取り外します。
6. 2 つの CSL8 フロントリンクを CSL4 の左右両端にある U 字型溝に差し込みます。両サイドのネジ穴位置が合っている事を確認したら、ねじを締めます。
7. CSL4/8 リンクの片端を CSL4 後ろ側の U 字型溝に差し込み、もう片端を CSL8 底の U 字型溝に差し込みます。リンク金具両端の 2 つのネジ穴がU字型溝に合っている事を確認したら、M5 サムスクリューを取り付け、きつく締めます。CSL4/8 リンクの白いスケール線が U 字型溝とあっていることを確認してください。
8. 設置したクラスターの底に、もう一つ又は複数のクラスターを吊り下げる事が出来ます。

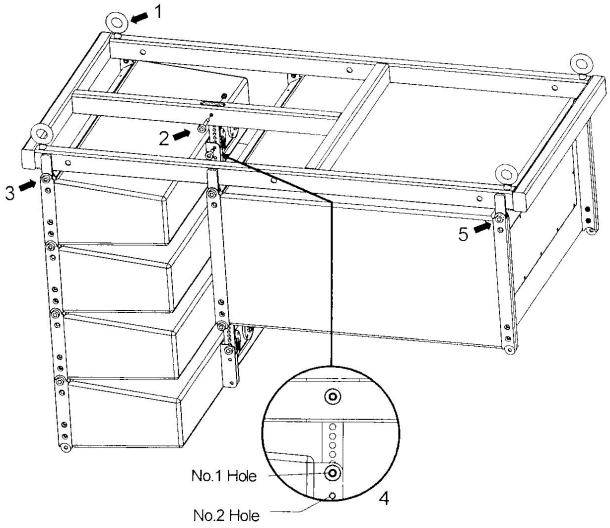
設置方法 3

CSL8 を底にし、クラスターを積み重ねる



設置方法 4 （オプションのロング・フライングフレームを使用する）

1 つのクラスターを前後に設置する

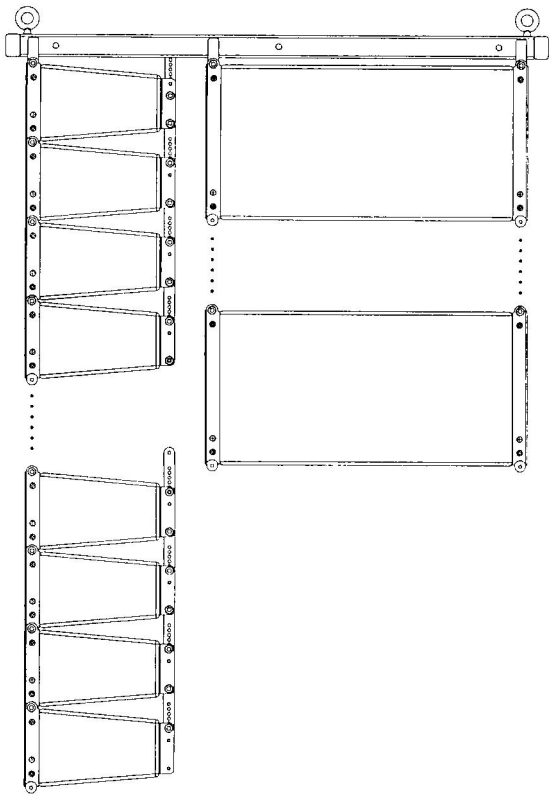


1. パッケージを開け、CSL4, CSL8 スピーカーと付属品を取り出します。
2. オプションのロング・フライングフレームのパッケージを開け、フレームと付属品を取り出します。
3. M8 リングをフライングフレーム(矢印 1)に取り付け、CSL4 バックリンクをロング・フライングフレームの中央にある溝へ差し込みます。(矢印 2)
4. ロング・フライングフレームを逆さまにします(リングが下に来るようにします)。
5. CSL4 前面の上部にある 2 つの M5 サムスクリューを取り外してください。
6. CSL4 を逆さまにしてください。ロング・フライングフレームのフロントリンクを CSL4 の前面左右の縁にあるU字型溝に差し込み、2つのネジ穴が揃っていることを確認した上で、M5 サムスクリューを穴に通してきつく締めてください。
7. CSL4 をひっくり返し、CSL4 バックリンクの 0 とマークされているスケール線が U 字型溝の底に揃うようにロング・フライングフレームに取り付け、M5 サムスクリューで締めてください。(図 4)
8. CSL8 の下部にある二つの M5 サムスクリューを取り外し、CSL4/8 リンクを外します。CSL8 とショート・フライングフレームをつなぐ 4 つの M5 サムスクリューを取り外し、短いフレームを外してください。
9. CSL8 を逆さまにし、ロング・フライングフレームの後側にある U 字型溝へ 4 つのリンクを差し込み、ネジ穴が揃っていることを確認してから、2 つの M5 ネジで取り付けます。

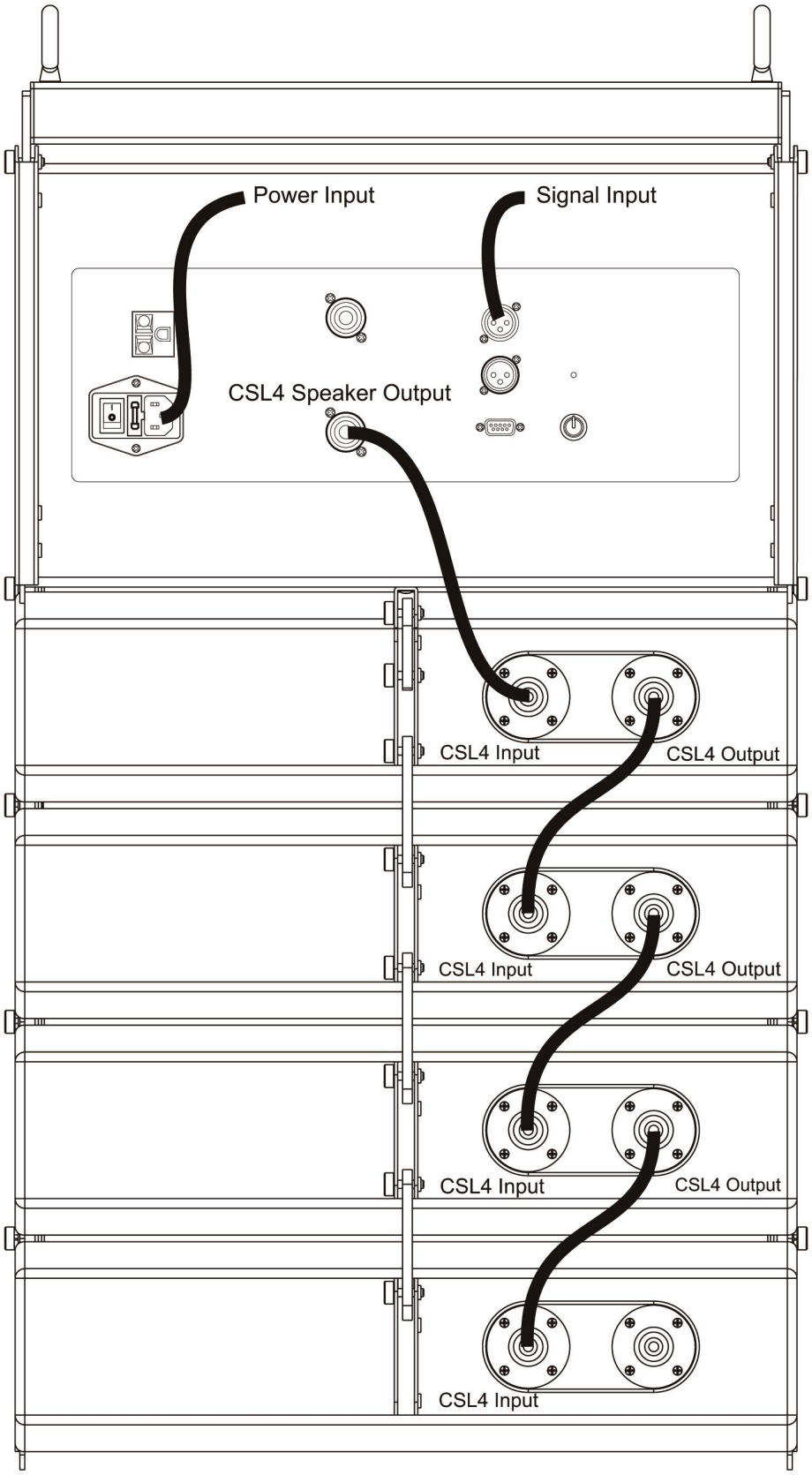
設置方法 5

複数のクラスターを前後に取り付ける

（最大4つのクラスターを吊り下げ可能）



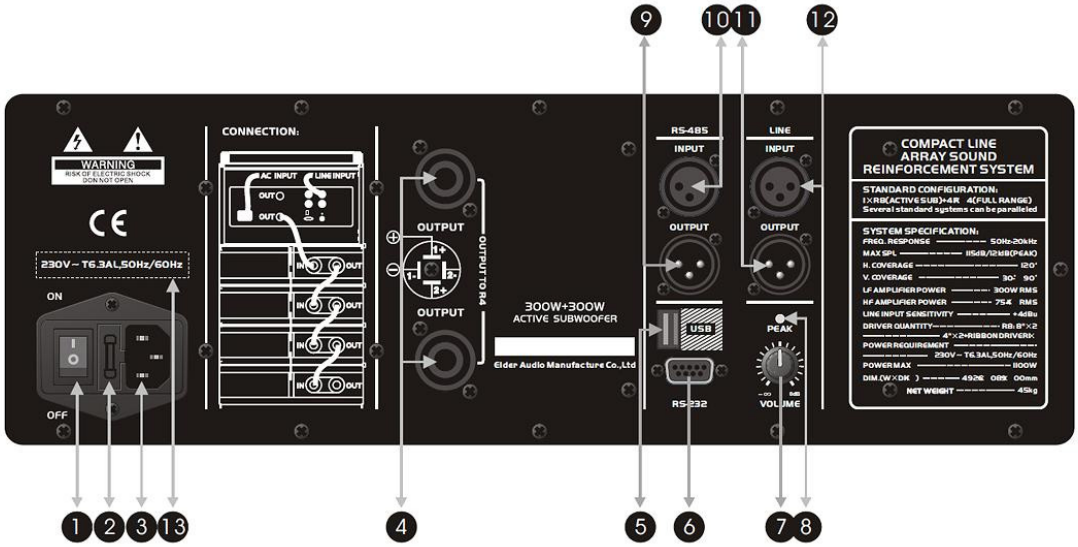
接続


Power Input
Signal Input
CSL4 Speaker Output
CSL4 Input
CSL4 Output
CSL4 Input
CSL4 Output
CSL4 Input
CSL4 Output
CSL4 Input

アンプモジュール

DSP アクティブアンプ

本システムに搭載されたアンプモジュールは前バージョンをベースにいくつかの改善が施されました。RS-485、及び USB ポートが追加され、コンピュータからソフトウェアを介してのコントロールが容易になりました。備え付けの無段階クーリング・ファン（ファンの回転速度は、本体が安定して動作するよう発熱に応じて変化します。）、過電圧保護、ショート回路保護（異常な電圧がかかったときなどにアンプを保護します。）、温度保護（発熱が通常の範囲を超えた際、DSP が出力を抑えます。通常の温度に戻ればアンプ出力も通常の状態に戻ります。）、が本製品を安心してご利用いただけることをお約束します。ピーク・インジケータ機能も進化しています。新バージョンでは AD オーバーロードインジケーション機能とDSP オーバーロードインジケーション機能があり、本システムのコントロールが大変簡単になっています。より高性能の IC を搭載することでオーディオ・パフォーマンスも大幅に改善されました。



1、電源スイッチ、2、ヒューズ、3、電源ケーブルソケット、4、出力（NL4 ソケット）、5、USB ポート
6、RS-232 ポート、7、ボリュームノブ、8、ピーク・インジケータ、9、RS-485 出力、10、RS-485 入力、
11、ライン出力、12、ライン入力、13、定格電圧 AC100V, 50/60Hz でご使用ください。

ソフトの操作手順

ソフトの入手方法

ソフトウェアは付属の CD に収められていますが、最新の物は弊社サイトよりダウンロードしていただく事も可能です。

ソフトウェアのインストール

推奨動作環境： Windows98以上、ディスプレイ解像度1024×768以上、RS232またはUSBポート

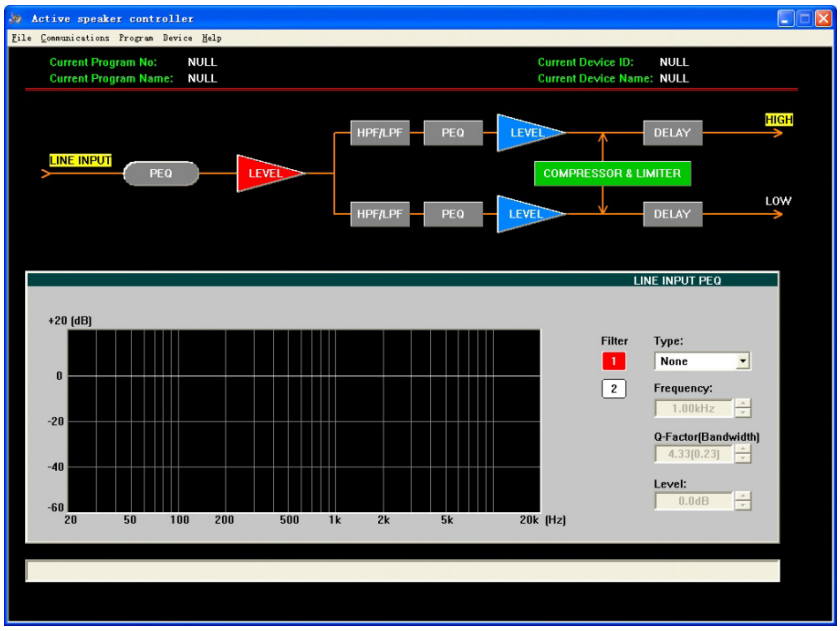
Active Speaker Controller(V1.34).msiファイルを起動し、コンピュータのセットアップガイドに従ってソフトウェアをインストールしてください。

スピーカーの接続

RS-232 ポートを介してスピーカー本体とコンピュータを接続してください。お使いのコンピュータに RS-232 ポートが無い場合は USB ポートをご利用いただけます。接続後、コンピュータが新しいデバイスが接続されたことを認識したら、付属 CD のドライバ・ディレクトリに収められている USB ドライバをインストールしてください。

ソフトウェアの操作

1. Windowsでスタート＞プログラムメニューからActive Speaker Controllerを開くと以下の画面が立ち上がります。



（画面 1）

この画面で次に説明するメニューの操作を行います。

1.1 File: 既存のファイルを開き、現在の設定ファイルをコンピュータへ保存します。

1.2 Communications: スピーカーを接続、もしくは取り外します。

1.3Program:

現在設定中のファイルや(スピーカーが接続されていない時)、スピーカーに適用されているプログラムの情報を(スピーカーが接続されている時)確認します。

スピーカーが接続されていない時は"Display Current Program No"、"Display Current Program Name"、"Edit Current Program Name"、"Load Factory Default Setting"のみが有効です。設定の変更は本体内のプログラム設定には影響しません。

スピーカーが接続されている時は、Programメニューの設定は全て有効になります。"Edit Current Program Name" からは現在のプログラムの名前が本体に記憶されます。"Load Factory Default Configuration" コマンドを実行すると、工場出荷時のセッティングが上書きされます。(この操作は現在のプログラム設定を上書きしてしまいますので、ご注意下さい)

その他、機能の詳細については下記を参照してください。

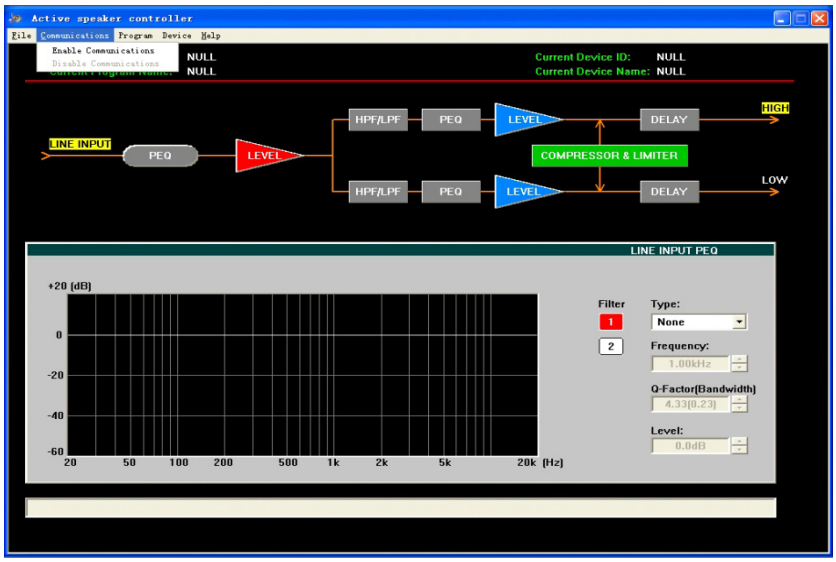
1.4 Device: スピーカーの情報を変更して自動的に本体に保存します。スピーカーを接続している時のみ有効です。

1.5 Help: コントロール・ソフトのバージョン情報を表示します。

2 スピーカーの接続

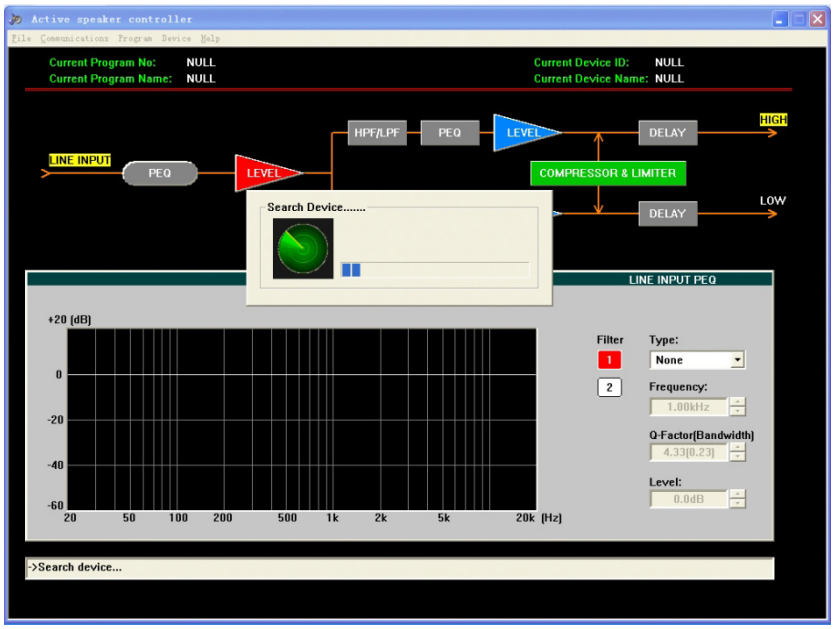
2.1 USB, RS-232, RS-485の3通りのポート経由で接続を行います。

2.2 PCのポートとスピーカー本体を接続し、"Communications" をクリックして"Enable Communications" コマンドを選択してください。(画面2)



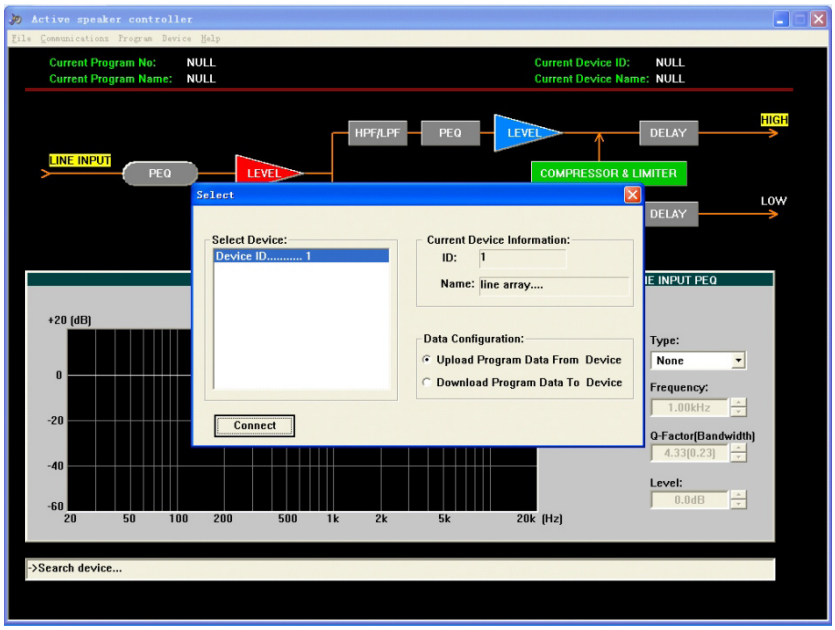
(画面2)

ソフトが接続されたスピーカーを自動的に検知します。この際ステータスバー下部に”Search Device…”と表示されます。（画面3）



（画面 3）

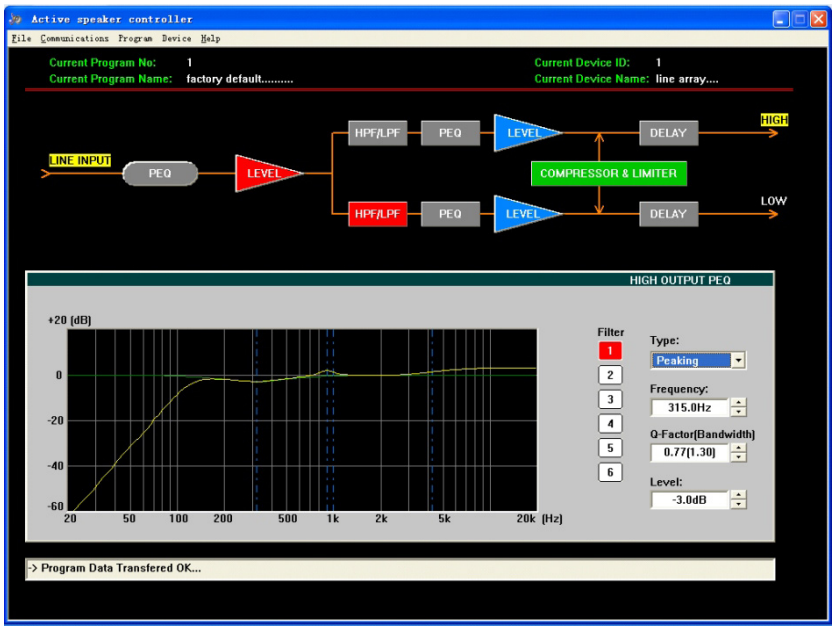
スピーカー（デバイス）が発見されると画面 4 のように表示されます。



（画面 4）

接続されたスピーカーが左のリストに表示され、リストの右側に選択したスピーカーの情報が表示されます。設定したファイルを開いて使用する時は、”Download Program Data to Device” を実行します。この操作ではパラメーターが接続したスピーカー本体のメモリに転送されます。本体に保存されなかった場合、本体の電源を落とした段階でその情報は失われます。”Upload Program Data From Device”を選択すると、本体に保存されているプログラムを PC で読み込む事が出来ます。左から接続したいスピーカーを選び、”Connect” ボタンをクリックして接続をスタートしてください。(注:複数のスピーカーを接続する際、それぞれのスピーカーに特定の ID が割り当てられます。)

接続の後、ソフトウェアは自動的にディスプレイを更新し、現在接続中のスピーカーの情報とスピーカー上で動作しているプログラムを表示します。(画面 5)



(画面 5)

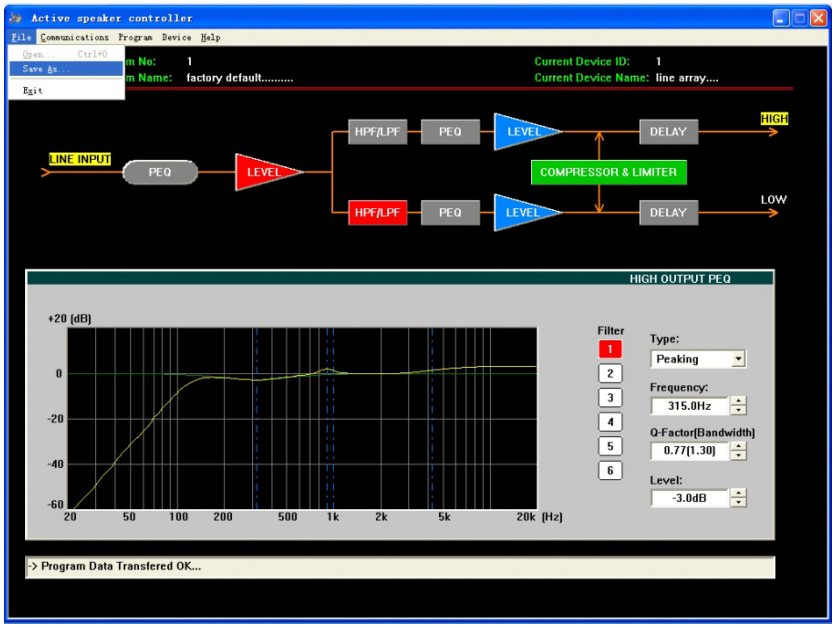
上の画面で、各機能のボタンをクリックして、お好みの操作を実行してください。

3　設定ファイルの保存と読み込み

本機が通常と異なった環境で仕様される際には、その環境に適した設定ファイルが必要になります。設定ファイルの保存、読み込みには2通りの方法があります。

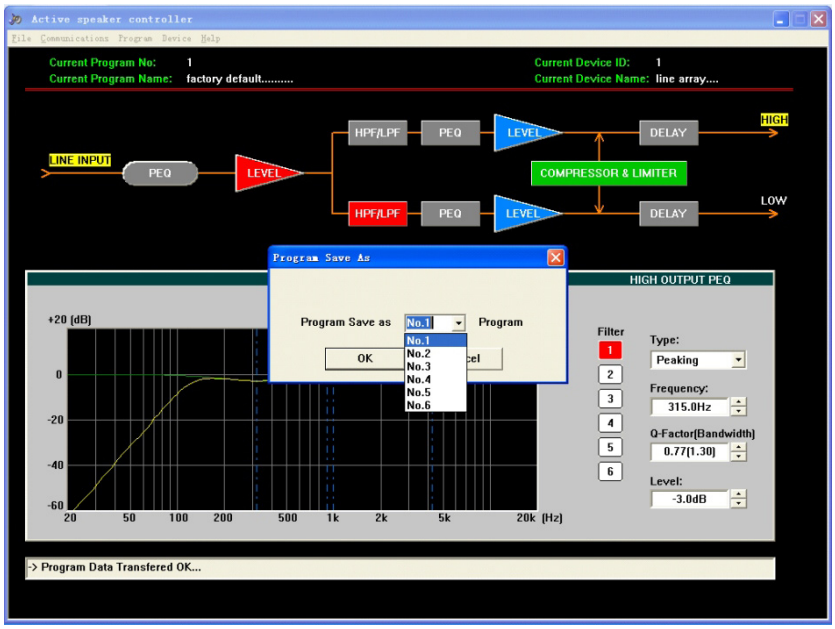
3.1 ファイルの保存：調整したパラメーターは、”Save As”メニューからファイル形式でPCに保存する事ができます。（画面6）

他のスピーカーで同じ設定ファイルを使用したい時は、”File”メニューから読み込むことができます。



（画面 6）

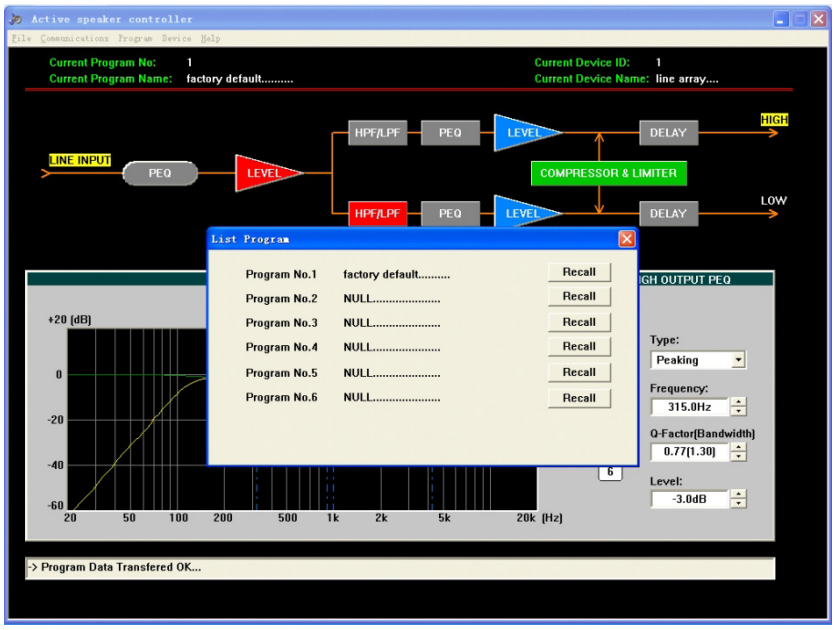
3.2 調整したパラメーターはスピーカー本体にも保存することができます。”Program”メニューから”Save as current program in device” を選択して、最大6件まで保存することができます。（画面7）



（画面7）

設定ファイルは、保存場所によって2通りの方法で読み込むことができます。コンピュータに保存されたファイルについては”File”メニューの”Open”から読み込みます。本体を接続してポップアップメニューから”Download program data to device”を選択してください。（画面4参照）

3.3　本体に保存されているファイル、プログラムは”Program”メニューの”List Program & Recall”から読み込むことができます。（画面8）



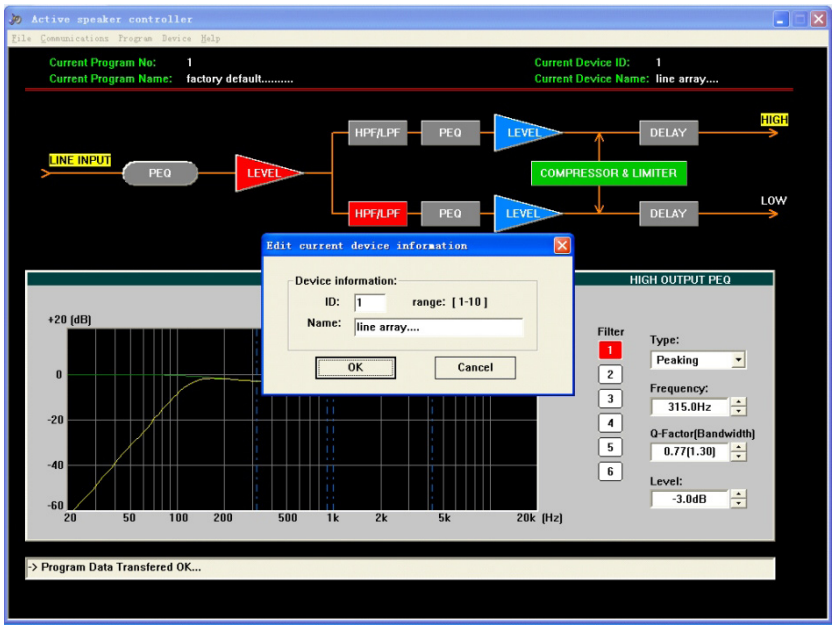
（画面 8）

ポップアップメニューからプログラムを選択し、”Recall”ボタンをクリックしてください。画面が更新され本体は読み込んだプログラムにしたがって動作します

4. 接続したスピーカーの情報を変更する。

スピーカーの位置や、ID、名前等の情報を変更します。スピーカーを接続した後、Deviceメニューの “Edit current device information” をクリックすると、これらの情報を変更することができます。(画面9)

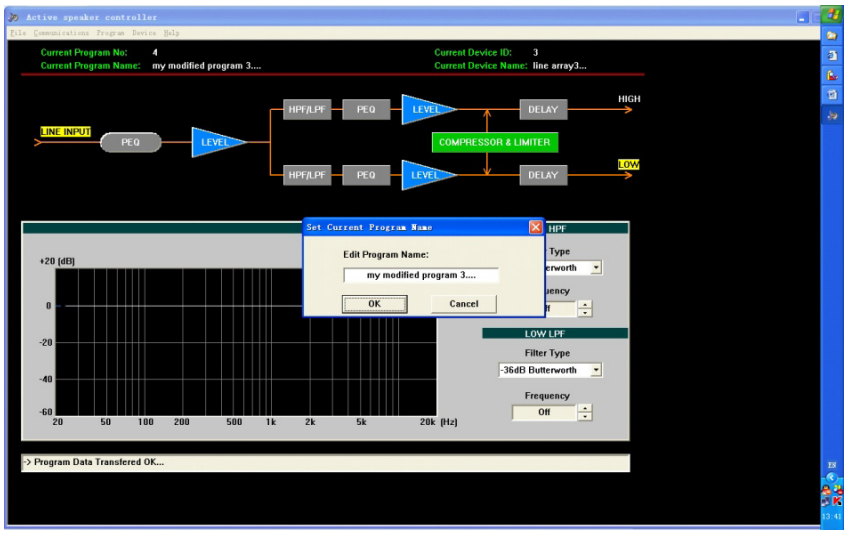
注意:ID ナンバーは 1 から 10 の数字の中から選択します。最大で 10 台までのスピーカーをひとつの RS-485 ポートから接続できます。名前は ASCII 文字で最長 14 文字まで設定できます。



（画面 9）

5. 使用しているプログラムの名前を変更する

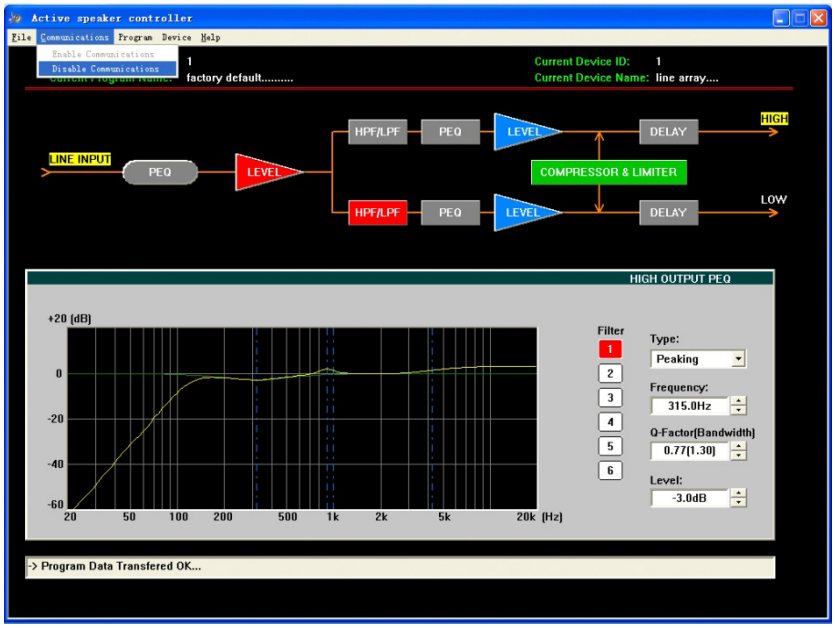
“Program”メニューから”Edit current program name” を選択します。(画面10)



（画面 10）

6. スピーカーの取り外し

変更されたパラメーターは、次回電源を入れるまで、スピーカー本体に保存することができます。パラメーターの保存を行わなかった場合、以前のパラメーターに加えた変更点は消去されます。“communications”メニューから”disable communications”を選択してスピーカーの取り外しを行います。（画面11）



（画面 11）

モジュール操作手順

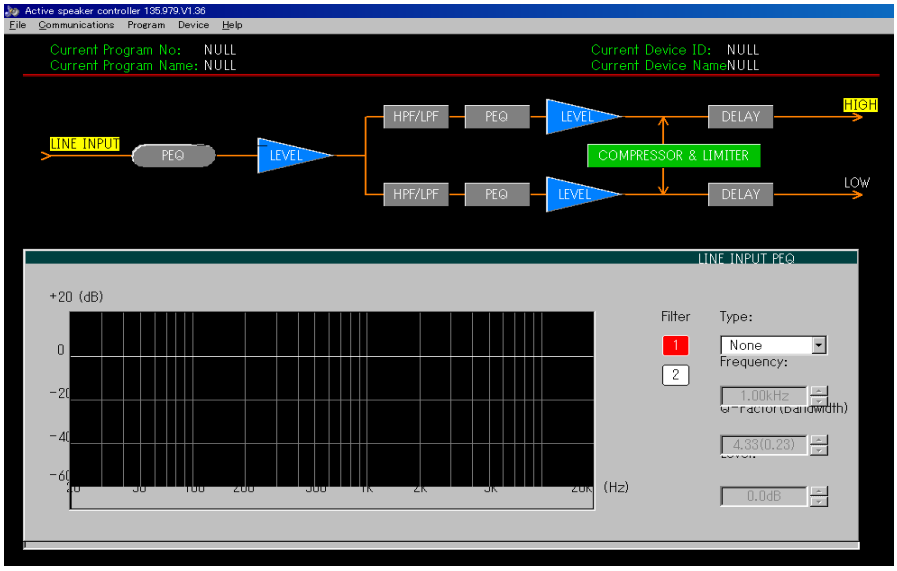
1. 機能モジュール操作

1-1：入力チャンネルのパラメーター設定 （MIC 入力の設定例）

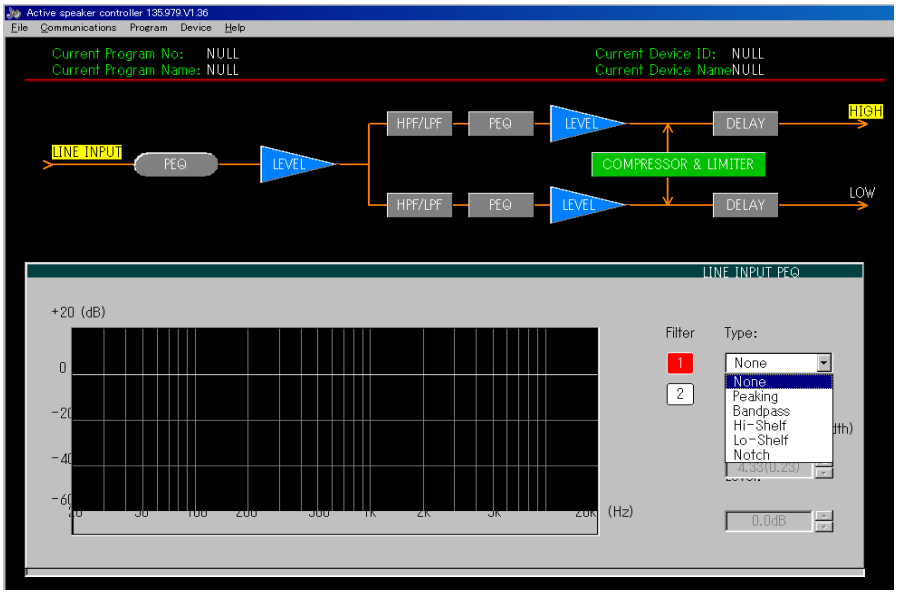
1-1-1：PEQ の設定：

MIC チャンネルの PEQ ボタンをクリックすると赤くなります。

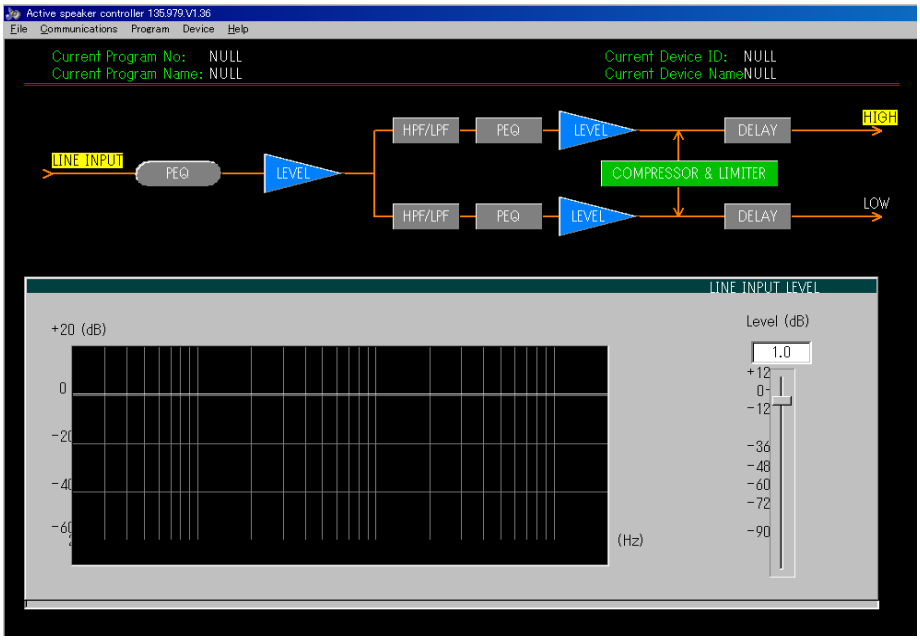
ディスプレイ上でタイプ、周波数、バンド幅、レベルを調整する事が出来ます。



フィルター”1”、”2”のどちらかを選択し、”Type”のスクロールメニューを開きます。None(フィルターを使わない、ダイレクトパス)、Peaking、Bandpass、Hi-Shelf、Lo-Shelf、Notch の計 6 つのフィルタータイプから任意のフィルターを選択します。フィルタータイプを選択した後、周波数、バンド幅、レベルを調整します。



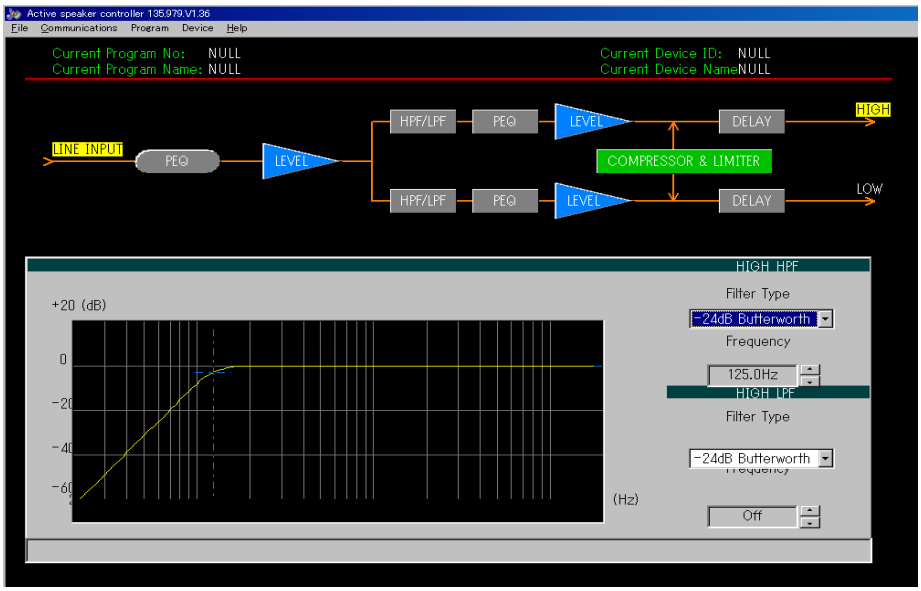
1-1-2：ボタンをドラッグして、MIC チャンネルのボリュームを調整します。



1-2：出力チャンネルのパラメーター設定 （HF 出力チャンネルの設定例）

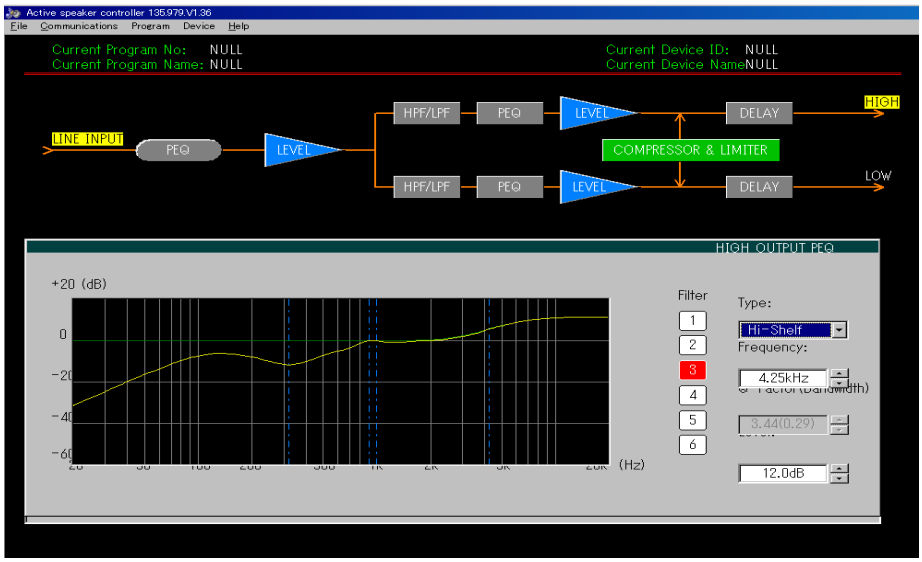
1-2-1：クロスオーバーの設定

HPF/LPF ボタンをクリックすると赤くなります。ディスプレイが以下のように表示されます。



1-2-2：出力の PEQ 設定

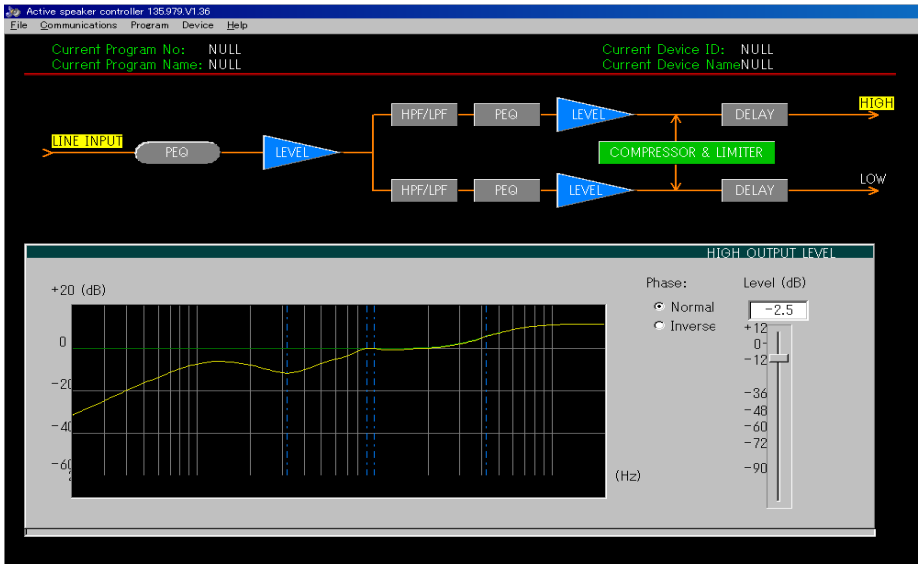
HPFチャンネルの PEQ ボタンを押します。6 通りの PEQ 調整を行う事が出来ます。



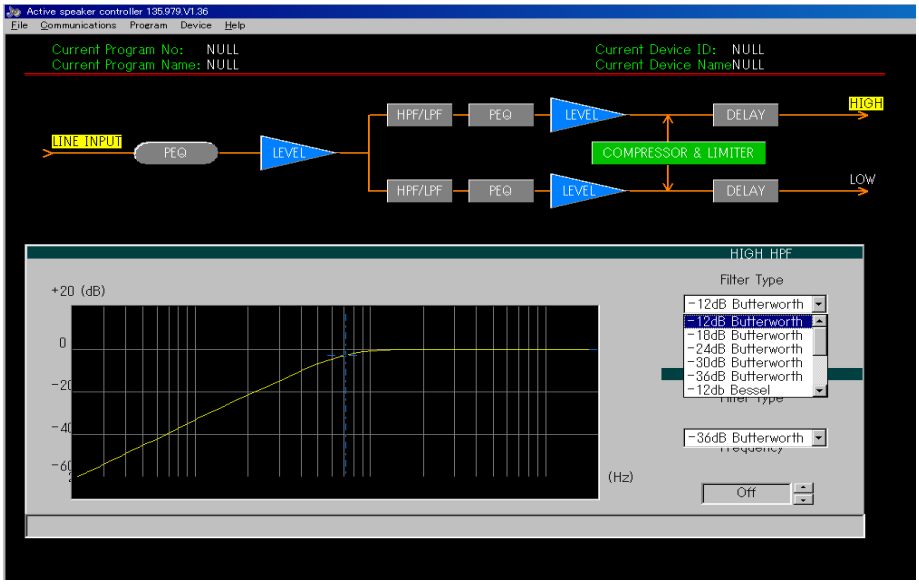
1-2-3：出力ゲイン、フェーズの設定

HPF チャンネルの LEVEL ボタンを押します。ゲインボタンをドラッグしてレベルを調整します。

左側のラジオボタンで Inverse/Normal のどちらかのフェーズを選択します。

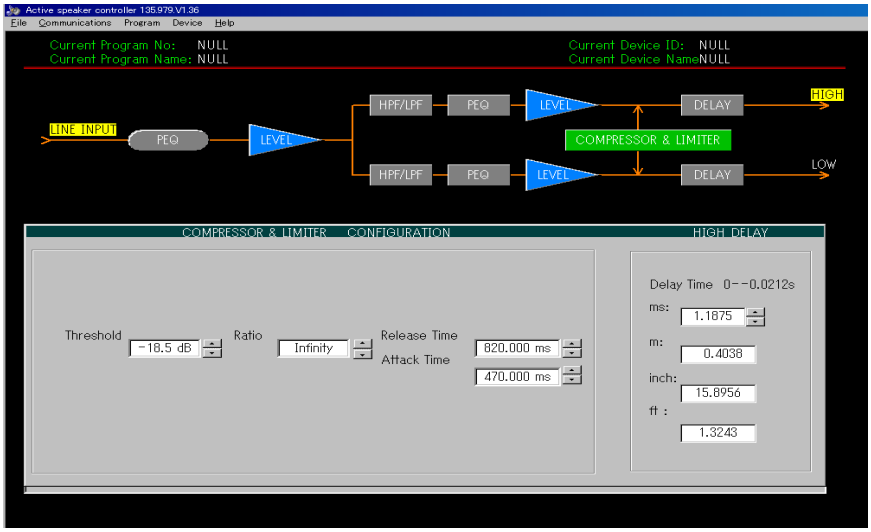


HPF/LPF 両チャンネルのフィルタータイプを BUTTER WORTH、BESSEL、LINKWITZ-RILEY の中から選択します。更に-12dB/Oct36dB/Oct slope がオプションとして選択できます。HPF/LPF 別々に設定する事も可能です。



1-2-4：ダイナミックレンジ調整

DRC ボタンを押します。HF 信号を確認し、リミットに達すると同時に HF チャンネルと LF チャンネルにコンプレッションがかかります。（同時にかかることによって両チャンネルのバランスが取れます）



ダイナミックレンジテーブルでは 4 つのパラメーターを調節することができます。

Threshold：コンプレッションの限界値を 0dB から-49.5dB 間で調整します。

Ratio：レシオを 1：1 から＆∞：1 まで調節します。

Release Time：コンプレッションのリリースタイムを調節します。

Attack Time：コンプレッションのアタックタイムを調節します。

1-2-5：出力チャンネルのディレイ設定

音の中央からの距離を調節します。DELAY ボタンをクリックし、0.0208ms から 21.2292ms までのレンジでディレイ調節が可能です。

メモ：ユニットへ接続する前に、ファイルの編集・保存を行い、接続時に操作する事が出来ます。

（PC からユニットへのデータのダウンロードが可能です）

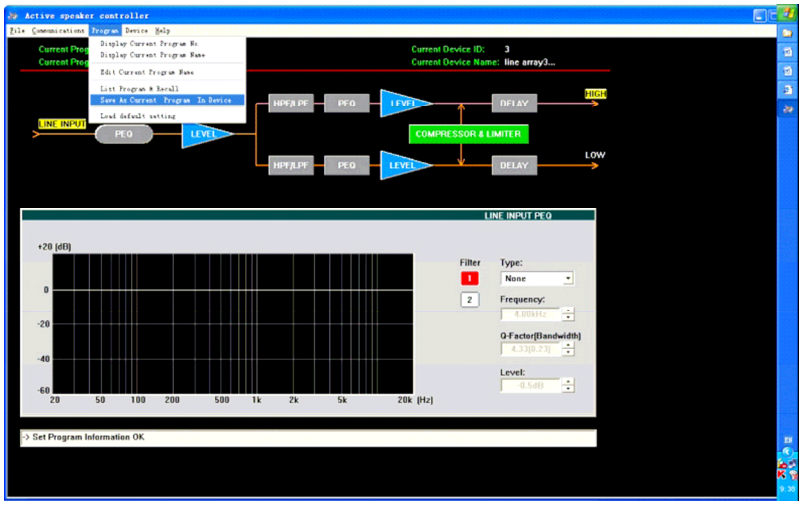
ソフトの使用例

1.　使用中のプログラムに別のプログラム名をつけて保存する。

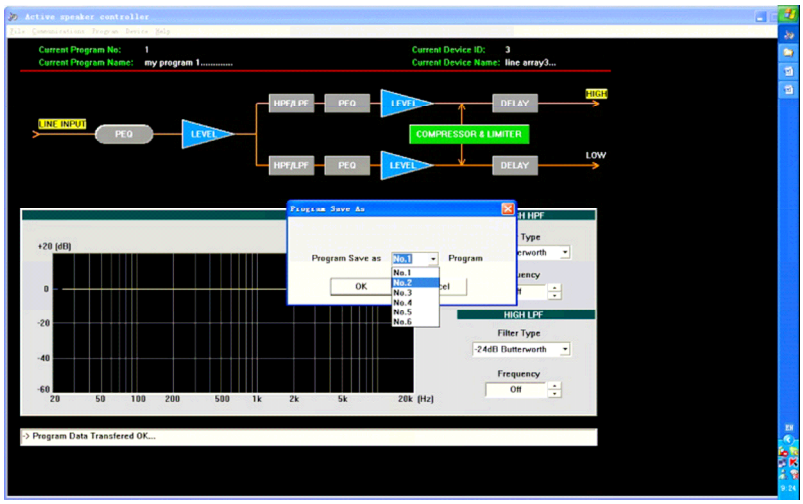
新しい名前で、別のプログラムとして保存したい時は”Program save as” を選択し、”edit current program name” で名前を変更してください。

操作例:

1)　スピーカー本体からPCにプログラム#1を読み込み、パラメーターを調整したら、”Program” メニューから ”Save as current Program In Device” を選択します

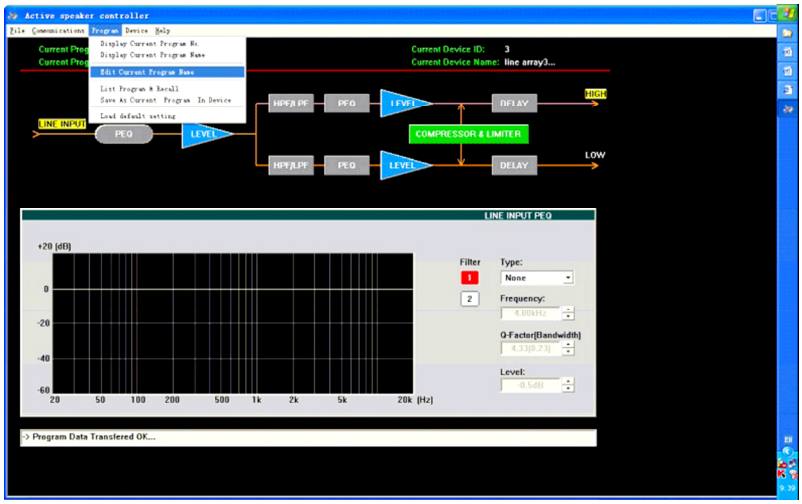


2)スピーカーに保存するプログラム番号を選択します。

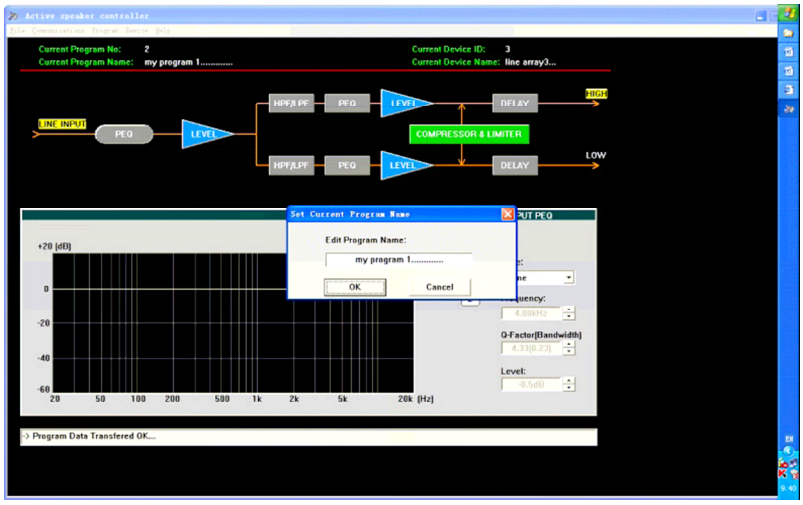


OKをクリックしてください。プログラム#1はプログラム#2として保存されました。起動しているプログラムが自動的に#2に切り替わります。(この段階ではPCに読み込まれたプログラム#1は変更されていません)

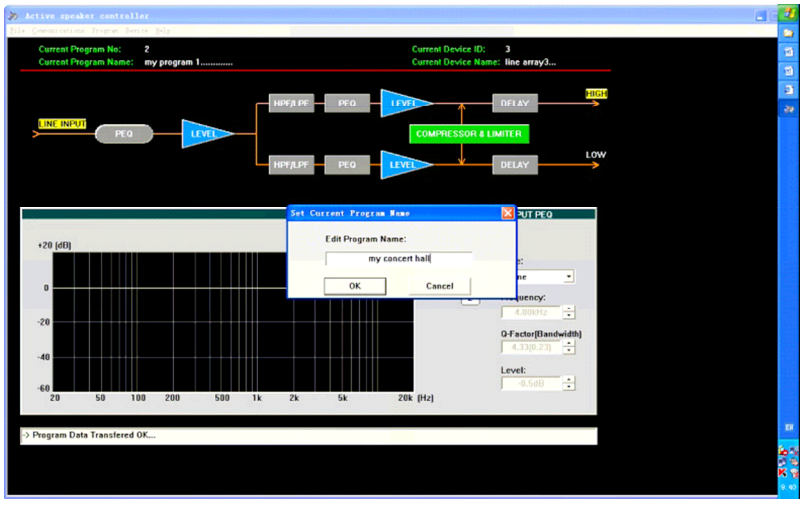
3) “Program”メニューから”Edit Current Program Name” を選択します。



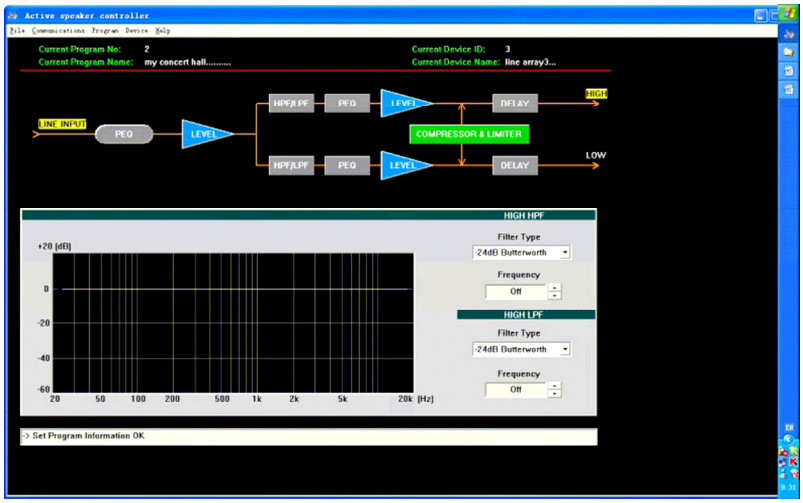
4) ”Set Current Program Name” ダイアログボックスから名前の変更を行ってください。



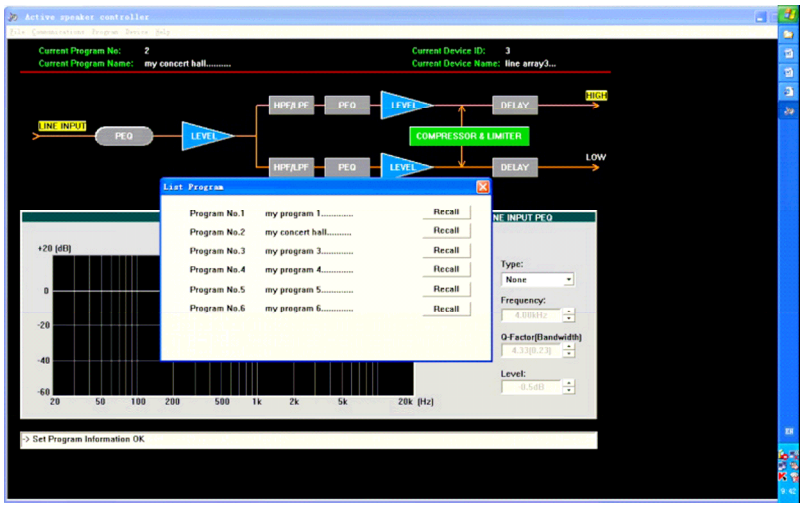
以下の画面のように”my concert hall” に変更されます。



5） OKをクリックしてください。これでメイン画面上のプログラム名が“my concert hall”に変更されました。



6） ”Program”メニューから”List Program & Recall”を選択してください。以下の画面のように、本体のプログラムリストが表示されます。

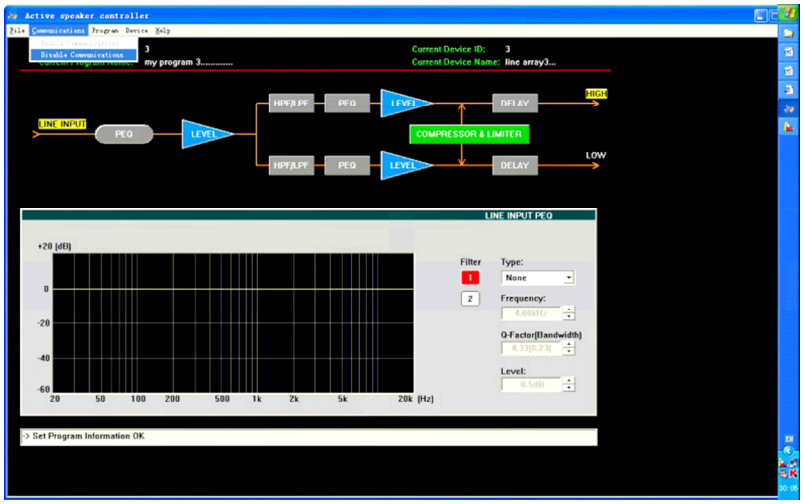


2.　スピーカーから読み込んだプログラムをPCに保存する。

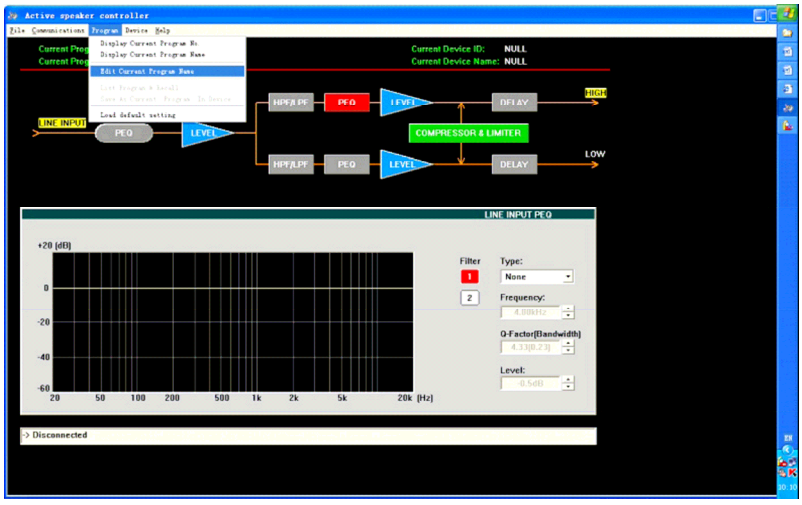
ファイルの編集はスピーカーが接続されていない時のみ可能です。スピーカーを接続している状態では”Edit current program name ” が有効です（自動的にスピーカー本体に保存されます）。設定したファイルを他のスピーカーで使用したい時は、接続していない状態で”program name”を変更して新しい別のファイルとして保存してください。それから新しい設定ファイルをスピーカーにダウンロードし、別のプログラムとして保存します。

操作例

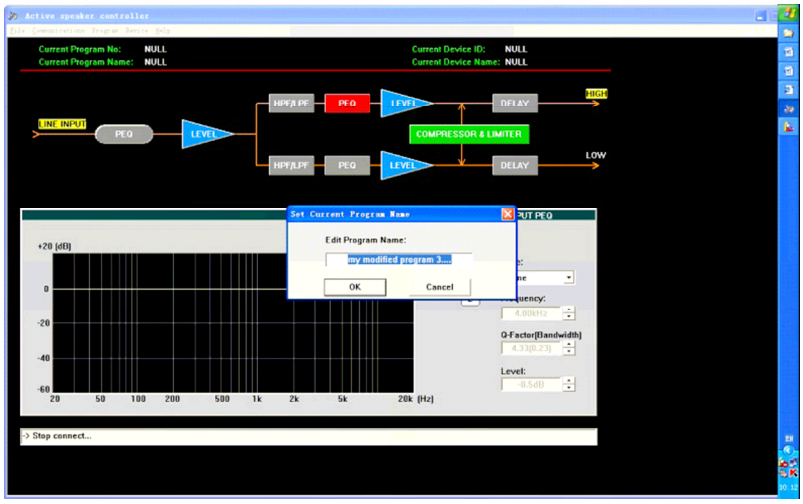
1）　スピーカー本体からPCにプログラム#3をアップロードした後、パラメーターを任意に調整します。調整が済んだら、”Communications”メニューから”Disable Communications ”を選択してください。（スピーカーが接続されていない状態では、これらの操作はスピーカー内のプログラムに影響しません。）



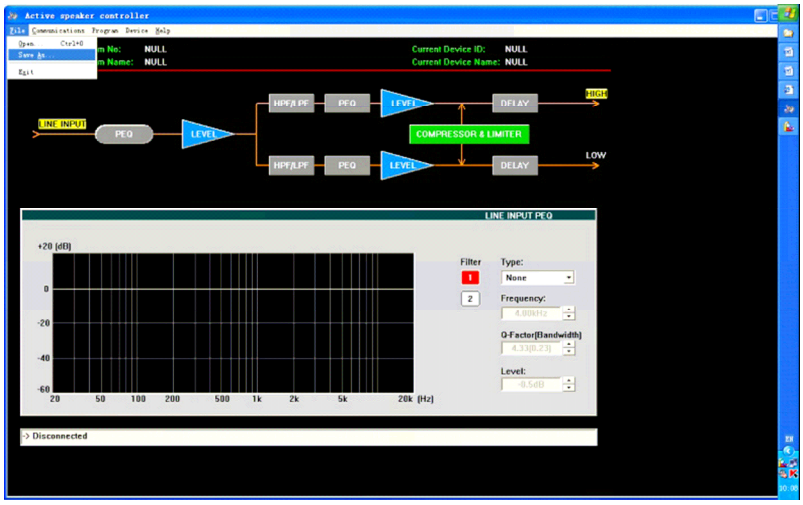
2）　ファイル名を変更するには、”Program” メニュー内の“Edit Current Program Name”を実行してください。



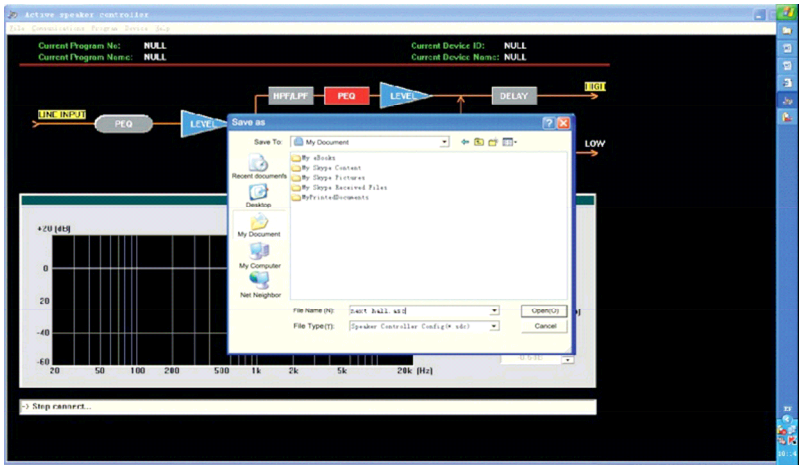
プログラム名を”my modified program 3” に変更し、”OK”をクリックしてください。



3） ”File”メニュー内の”Save as” コマンドを選択します。

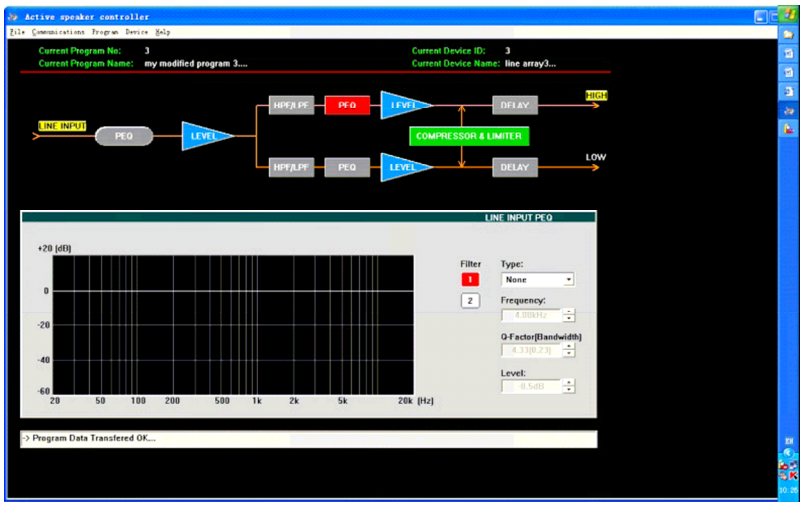


4） ”File Name(N)”ボックスに”next hall.asc”と入力し、”Save(S)”をクリックしてください。

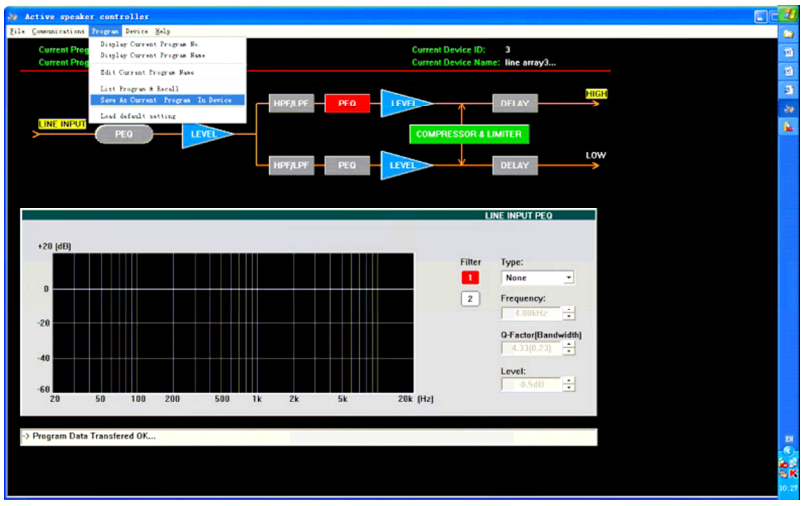


3. ファイルをスピーカーにダウンロードしてプログラムとして保存する

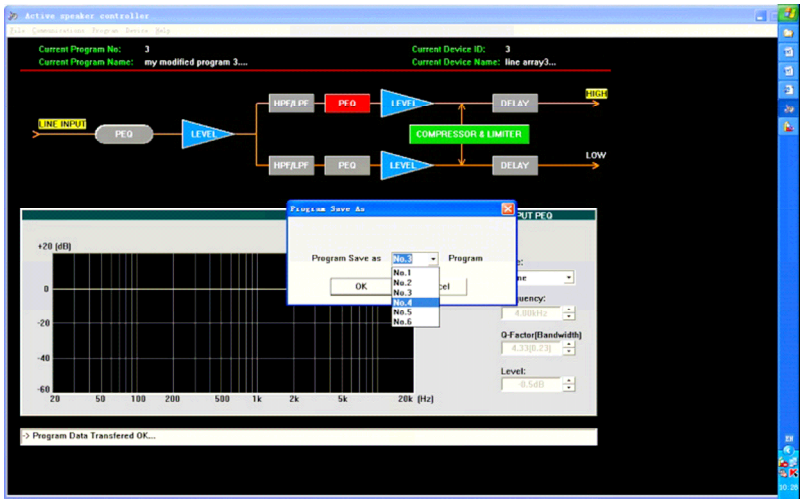
1） 設定ファイルをスピーカーにダウンロードします。（”Save As current Program In Device” を実行するまではRAMメモリにのみ記憶されます。FLASH ROMには保存されません）



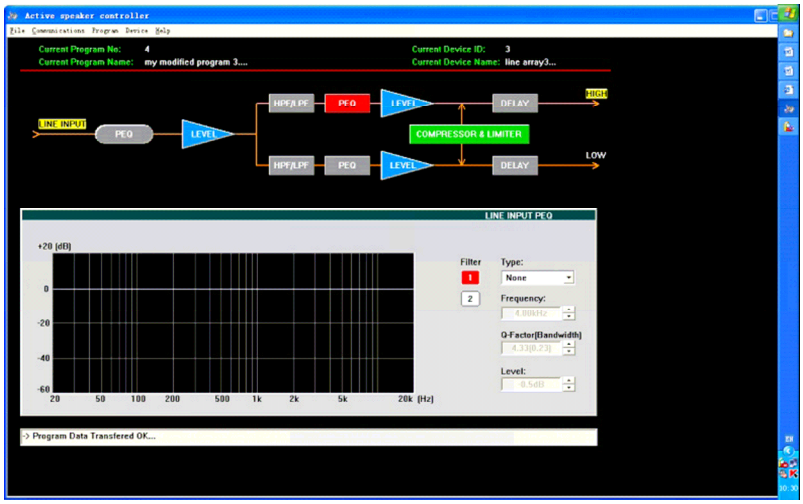
2） ”Program”メニューから”Save As Current Program In Device”コマンドを実行します。



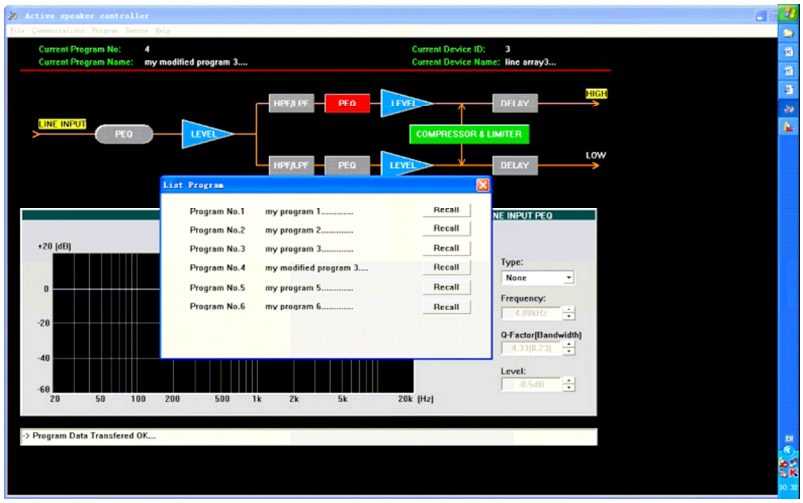
3)　保存先を選択してください。(ここでは例として#4 とします。)



OKボタンをクリックします。これで設定ファイル(next_hall.asc)　のパラメーターはプログラム#4としてスピーカーに保存されました。"Current Program No"及び"Current Program name"　は下図のようにファイル名に従って変更されます。



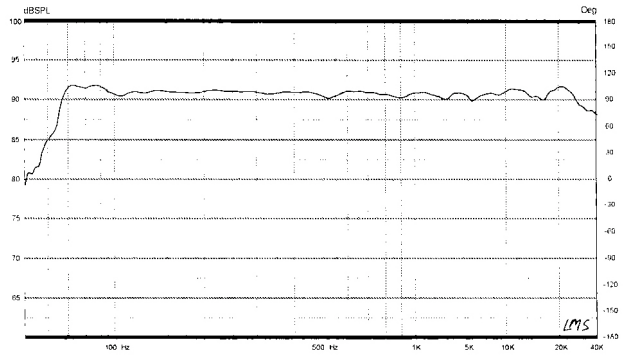
以下のようにリストとして表示されます。



各種データ

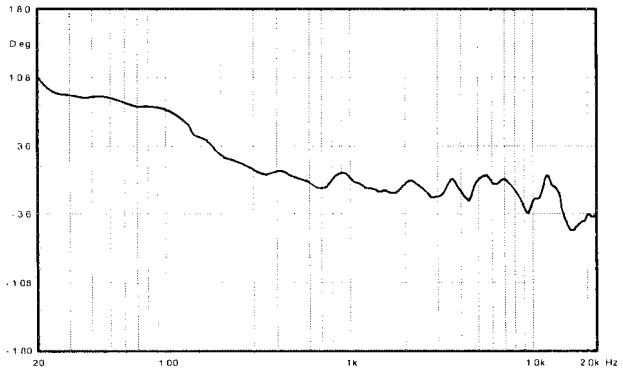
周波数特性

FREQUENCY RESPONSE



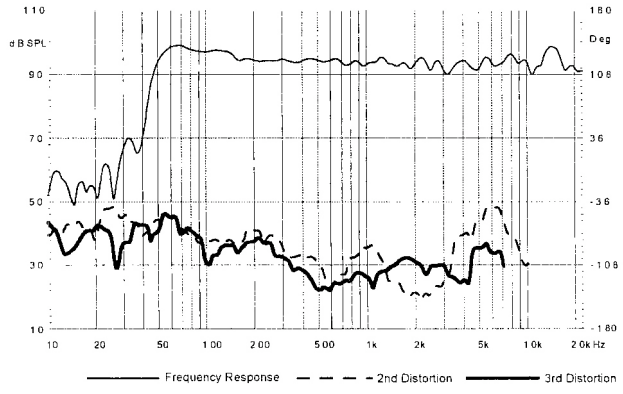
位相反応

PHASE RESPONSE

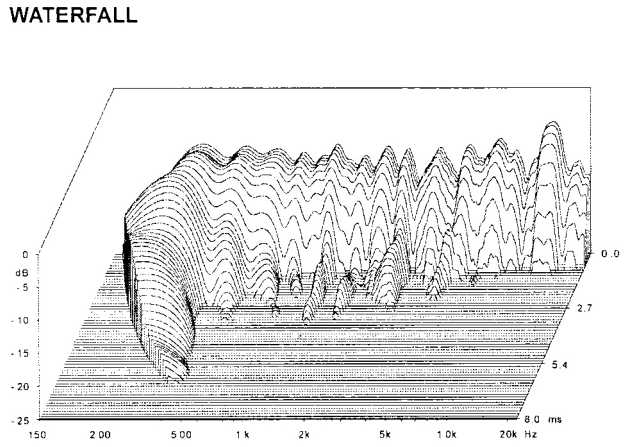


THD（全高調波歪み）

THD

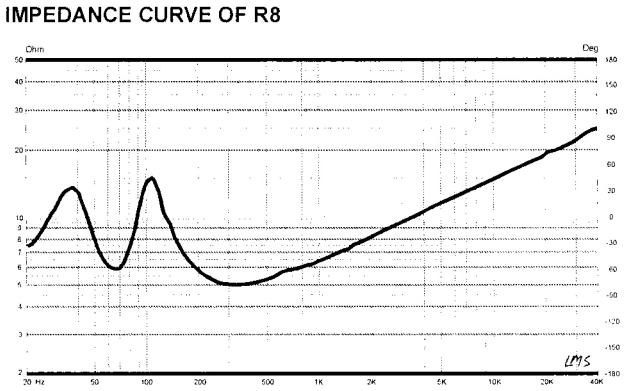


ウォーターフォール

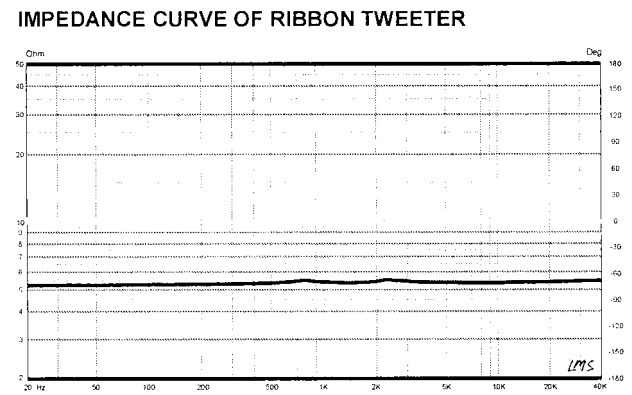


インピーダンスカーブ

CSL8 のインピーダンスカーブ

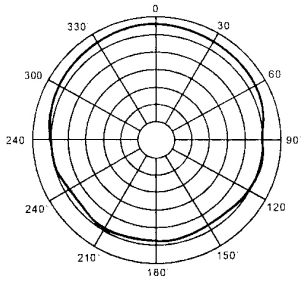


リボンツィーターのインピーダンスカーブ

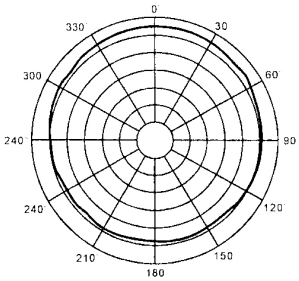


水平指向性

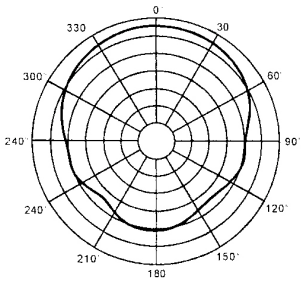
以下に示す CSL4/8II の水平指向性は大きな無響室におけるテストで集められたものです。テストに使ったマイクとスピーカーの距離は 4 メートルです。（スケールは 6dB 毎の増大）



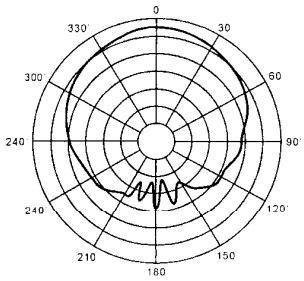
100Hz



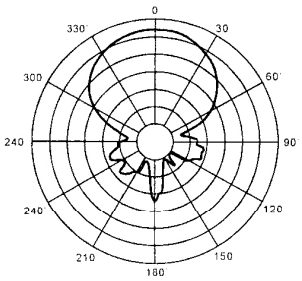
160Hz



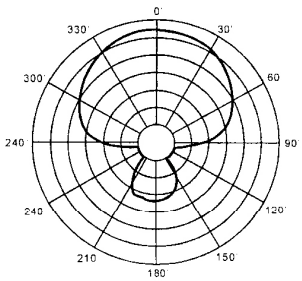
250Hz



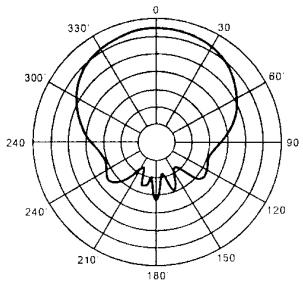
400Hz



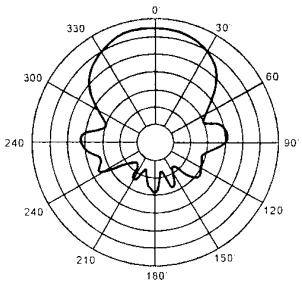
630Hz



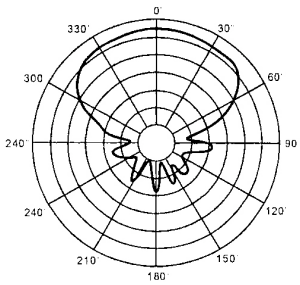
1kHz



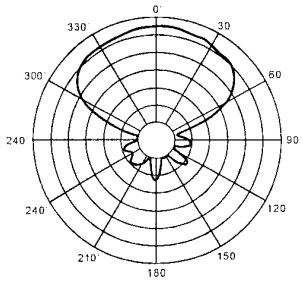
1.6kHz



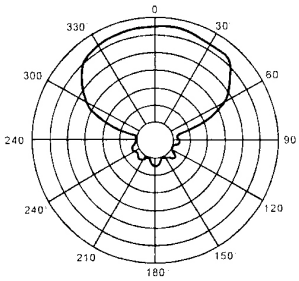
2.5kHz



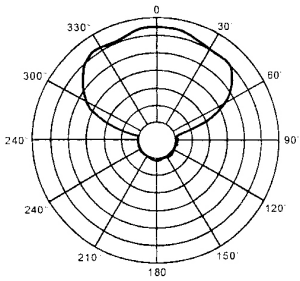
4.0kHz



6.3kHz



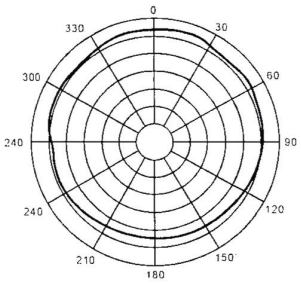
10kHz



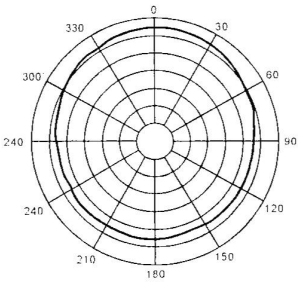
16kHz

垂直指向性

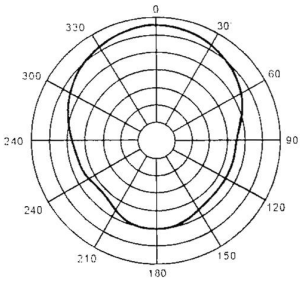
以下に示す CSL4/8II の垂直指向性は大きな無響室におけるテストで集められたものです。テストに使ったマイクとスピーカーの距離は 4 メートルです。（スケールは 6dB 毎の増大）



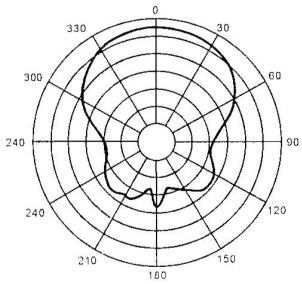
100Hz



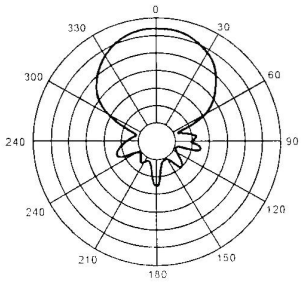
160Hz



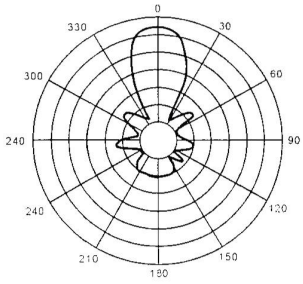
250Hz



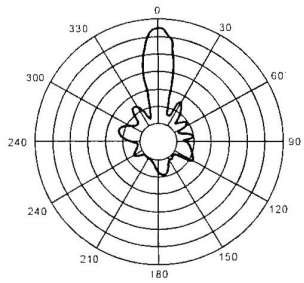
400Hz



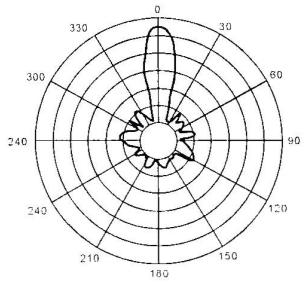
630Hz



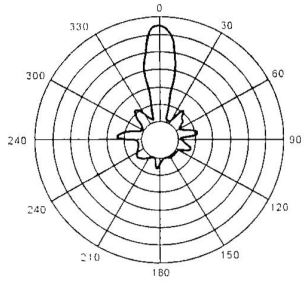
1kHz



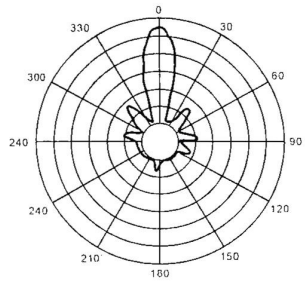
1.6kHz



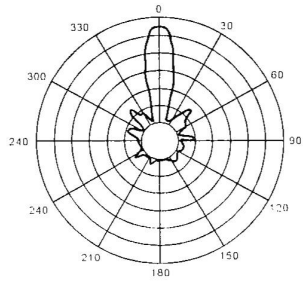
2.5kHz



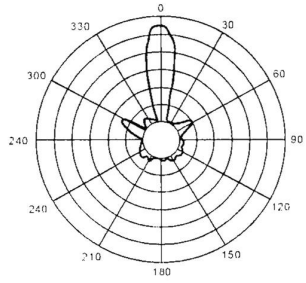
4.0kHz



6.3kHz



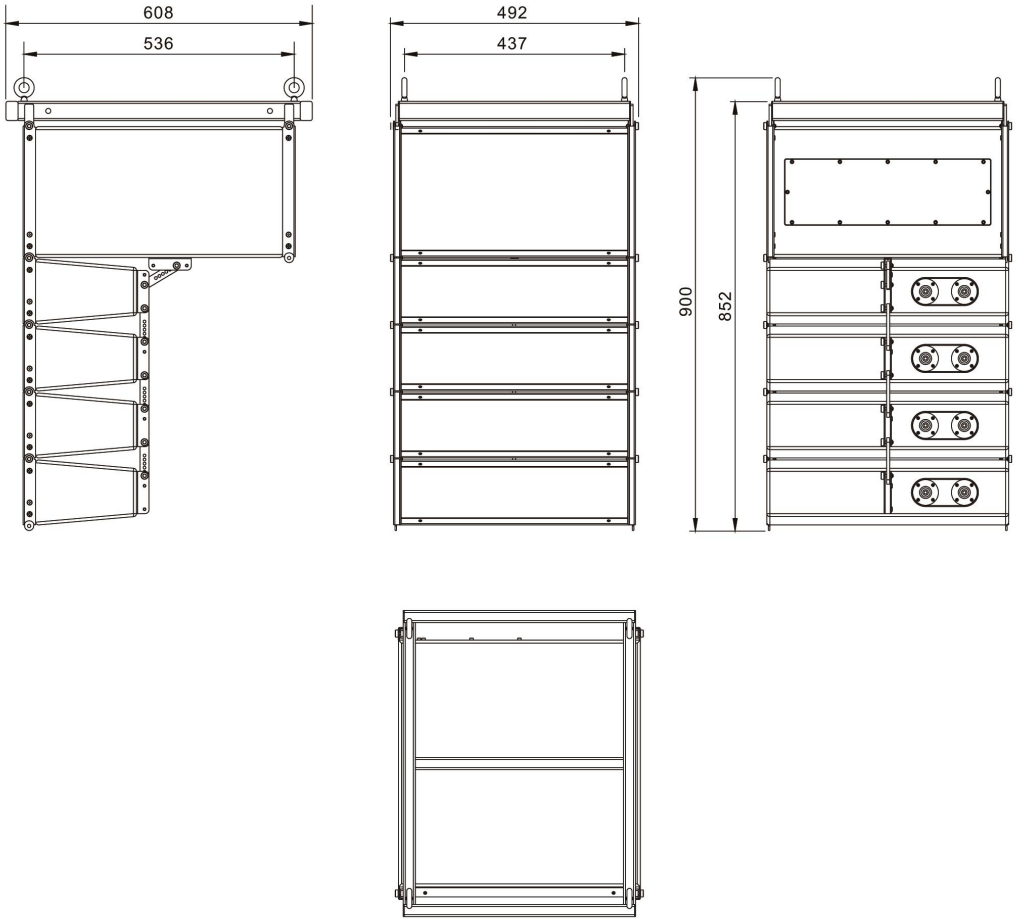
10kHz



16kHz

仕様

周波数帯域	50Hz – 20kHz
最大 SPL	115dB/121dB (PEAK)
水平指向性	120°
垂直指向性	30°-90°
中低域の最大出力	300W RMS
高域の最大出力	75WX4 RMS
ライン感度	+4dBu
ドライバー	CSL4: 4″x 2 + リボンドライバー x 1
	CSL8: 8″x 2
最大消費電力	1100W
電源	100V/50/60Hz
寸法	W492 x D608 x H900 mm
重量	45kg



保証書

保証書

ご使用中に万一故障した場合、本保証書に記載された保証規定により無償修理申し上げます。

お買い上げ日より１年間有効

■保証規定

保証期間内において、取扱説明書・本体ラベルなどの注意書きに基づき正常な使用方法で万一発生した故障については、無料で修理致します。保証期間内かどうかは、サウンドハウスからのご購入履歴により確認を行います。保証期間は通常ご購入日より１年ですが、商品によって異なる場合があります。但し、保証期間内でも、下記のいずれかに該当する場合は、本保証規定の対象外として、有償の修理と致します。

1. お取扱い方法が不適当（例：ボイスコイル焼けなどの故障等）なために生じた故障の場合
2. サウンドハウス及びサウンドハウス指定のメーカーや代理店が提供するサービス店以外で修理された場合
3. お客様自身が行った調整や修理作業が原因となる故障および損傷。もしくは、製品に対して何らかの改造が加えられた場合
4. 天災（火災、塩害、ガス害、地震、落雷、及び風水害等）による故障及び損傷の場合
5. 製品に何らかの理由で異物が付着、もしくは流入したことによる故障及び損傷とみなされた場合
6. 落下など、外部から衝撃を受けたことによる故障及び損傷とみなされた場合
7. 異常電圧や指定外仕様の電源を使用したことによる故障及び損傷とみなされた場合（例：発電機などの使用による異常電圧変動等）
8. 消耗部品（電池、電球、ヒューズ、真空管、ベルト、各種パーツ、ギター弦等）の交換が必要な場合
9. 通常のメンテナンスが必要とみなされた場合（例：スモークマシン等の目詰まり、内部清掃、ケーブル交換等）
10. その他、メーカーや代理店の判断により保証外とみなされた場合

●運送費用

通常、修理品の発送や持込等に要する費用は全てお客様のご負担となります。但し、事前に確認のとれた初期不良ならびに保証範囲内での修理の場合は、弊社指定の運送会社に限り着払いにて受け付けます。その際、下記RA番号が必要となります。沖縄などの離島の場合、着払いでの受付は行っておりませんので、送料はお客様のご負担にて、どこの運送会社からでも結構ですので発送願います。

●RA番号（返品承認番号）

サウンドハウス宛に商品を送る際は、いかなる場合でもサポート担当より通知されるRA番号を必要とします。また、初期不良または保証期間内の修理における着払いでの運送についても、RA番号が必要です。ご返送される場合は、必ずRA番号を送り状に明記してください。RA番号が無いものについては、着払いは一切お受けできませんのでご了承ください（お客様のご負担の場合はどの便でも結構です）。

●注意事項

サウンドハウス保証は日本国内のみにおいて有効です。また、いかなる場合においても商品の仕様、及び故障から生じる周辺機器の損害、事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失、又はその他の金銭的損失等の損害に関して、サウンドハウスは一切の責任を負いません。

加えて、交換や修理等には当初の予定よりも時間を要することがありますが、遅延に関連する損害についても一切の責任を負いません。また、原則として代替機は、ご用意しておりませんのであらかじめご了承ください。

Classic Pro